秋田県立博物館

年　　報

２０１９年度

秋田県立博物館

はじめに

秋田県立博物館は、分館である「重要文化財・旧奈良家住宅」とともに、昭和50年５月に開館し、平成８年４月には「秋田の先覚記念室」と「菅江真澄資料センター」の二つの展示室が新たにオープンしました。平成16年４月にはリニューアルオープンし、参加体験型の展示室「わくわくたんけん室」を付加するなど、総合博物館として広く県民に親しまれてまいりました。

開館から44年の歳月が経過しました。これからも社会の変化や県民のニーズに応えることにより、地域に貢献できる博物館を目指してまいります。当館では今年度も「中期ビジョン2015～2019」の後期計画にもとづき、秋田の豊かな文化遺産を活かした学びをとおして、郷土への愛着と誇りを醸成し、かけがえのない「ふるさと秋田」に寄り添っていきたいと考えております。

博物館は、県民や地域社会から託された資料を大切に保存・管理しつつ、調査研究活動を重ねてその成果を未来・次世代に伝える活動を担っています。本県の生涯学習は、学びを生かした活動にチャレンジすることを目指していますが、その活動には「対話と連携」の精神がもとめられています。「知」を伝承し、「知」に触れることの感動や学びあうことの楽しさを伝えながら、新しい価値を創造する博物館、生涯学習・学校教育の一翼を担いながら、多様な機能を発揮する博物館を目指して全館員で努力してまいります。

今後も県民文化の向上に寄与する博物館としての使命を果たすために、先行研究に学び、資料に学び、そして来館者に学ぶという姿勢を忘れず、スタッフ一同力を合わせて取り組んでまいります。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

秋田県立博物館

館長　髙　橋　　正

目次

■　施設の概要

Ⅰ　博物館のあゆみ …… 4

Ⅱ　施設・設備 …… 5

Ⅲ　展示室 …… 9

Ⅳ　組織 …… 13

Ⅴ　職員 …… 14

■　事業の概要

Ⅰ　2019年度博物館運営方針 …… 16

Ⅱ　2019年度博物館事業計画 …… 16

1　重点目標 …… 16

2　活動計画 …… 17

Ⅲ　平成30年度事業報告 …… 20

1　調査研究活動 …… 20

2　資料収集管理活動 …… 23

3　展示活動 …… 24

4　教育普及活動 …… 31

5　広報出版活動 …… 34

6　学習振興活動 …… 36

7　館外活動 …… 38

■　資料

Ⅰ　収蔵資料の概要 …… 41

Ⅱ　歴代館長、特別展等一覧 …… 42

Ⅲ　秋田県立博物館条例 …… 43

Ⅳ　秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） …… 44

教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋） …… 44

Ⅴ　入館者に関する資料 …… 45

施設の概要

Ⅰ　博物館のあゆみ

昭和42年１月　第２次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案
12月　県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定
47年３月　県立博物館設立構想完成
49年11月　定礎式
50年３月　秋田県立博物館条例制定
５月　開館式（５日）
一般公開（10日）
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される
７月　登録博物館となる（登録日50.7.1）
54年１月　生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン
55年５月　秋田県博物館等連絡協議会発足
59年９月　開館10周年記念式典
63年９月　本館屋根防水工事完了
平成３年８月　秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催
９月　分館旧奈良家住宅屋根修理着工
４年11月　分館旧奈良家住宅屋根修理完成
５年７月　増築工事着工
７年８月　増築工事完成
８年４月　「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン
９年８月　ニューミュージアムプラン（ＮＭＰ）21検討委員会設置
11年４月　入館料が無料となる
14年４月　ニューミュージアムプラン（ＮＭＰ）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館
15年10月　改修建築・設備工事完成
縄文時代の階段状石積み遺構を移設復元
16年３月　展示工事完成
４月　リニューアルオープン
17年12月　開館30周年記念式典
18年３月　旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録
20年７月　クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される
27年９月　開館40周年記念式典

Ⅱ　施　設　・　設　備

設 置 場 所　秋田市金足鵜崎字後山52
敷 地 面 積　14,885.9㎡
建 築 面 積　6,237.93㎡
建築延面積　11,946.2㎡
建 築 構 造　鉄骨鉄筋コンクリート造り
地上３階、塔屋２階建

【建築工事】
建 築 費　2,058,131千円
（含調査事務費・展示資料費）
着　　工　昭和48年７月
竣　　工　昭和49年11月
開　　館　昭和50年５月
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　三井建設㈱
設備施工　㈱三晃空調
東北電気工事㈱
展示設計施工　㈱丹青社

【増築工事】
建 築 費　1,578,174千円
（含調査事務費・展示資料費）
着　　工　平成６年７月
完　　成　平成８年２月
増設開館　平成８年４月
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　三井建設㈱
設備施工　㈱ユアテック
日の出施設工業㈱
㈱三和施設
日本オーチスエレベータ㈱
展示設計施工　㈱アートシステム

【ＮＭＰ事業】
事 業 費　2,087,400千円
{総事業費（含調査事務費、
展示製作委託費)}
着　　工　平成14年３月
完　　成　平成16年３月
リニューアル開館
平成16年４月29日
工事業者　建築設計　㈱安井建築設計事務所
建築施工　㈱林工務店
㈱清水組ＪＶ
設備施工　大民施設工業㈱
㈱あたごＪＶ
㈱中田建築設備
㈱ユアテック秋田支社
サン電気工業㈱
展示製作実施設計　㈱丹青社
展示製作委託施工　㈱乃村工藝社

設　　備
〈電気設備〉
(1)　受電電圧　３φ6,600Ｖ　50HZ
一般照明用　450KVA　(150×３)
一般動力用　550KVA　(300×１)
(250×１)
非常照明用　50KVA
非常動力用　150KVA
(2)　発電機設備　発電電圧　３φ6,600Ｖ
50HZ　200KVA
エンジン　ディーゼル　230KVA
(3)　蓄電池設備　108Ｖ　200AH　10HR
54セル
(4)　その他幹線・動力・電灯用設備一式
〈警戒（報）設備〉
(1)　レーダー警報設備（展示室・収納庫）
方式、パッシブインフラレッド方式
レーダー検出　10ヶ所
ドアスイッチ　10ヶ所
(2)　Ｉ・Ｔ・Ｖ監視設備
監視用カメラ　21台
（展示室14台　収蔵庫４台
１Ｆホール１台　外２台）
(3)　一般・非常放送設備
ロッカ型防災アンプ　容量　200W
非常時警報音　自動吹鳴式（サイレン）
〈空調換気設備〉
(1)　冷凍機設備（備熱水槽方式　容量780m³）
直焚吸収式冷温水機　冷却能力
1,220KW　加熱能力　1,200KW　１基
ターボ冷凍機（夜間蓄熱運転系統）
冷却能力　312KW　１基
空冷チリングユニット（夜間運転系統）
冷却能力　132KW　１基
(2)　ボイラー設備
貫流ボイラー（暖房・加湿用）熱出力　940KW
（換算蒸発量1,500kg/h）

伝熱面積　9.9m³　２基

(3)　空気調和設備（10系統）

冷却能力合計　897.8KW

加熱能力合計　524.6KW

(4)　換気設備一式

給気量（７系統）合計　25,850m³/h

排気量（９系統）合計　28,360m³/h

(5)　空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1)　防災設備　排煙口32ヶ所・タレ壁20ヶ所

防火戸47ヶ所

(2)　消火設備　屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓24ヶ所　屋外消火栓24ヶ所

ハロン消火設備（収蔵庫のみ　３区画）

二酸化炭素消火設備（収蔵庫のみ　２区画）

〈その他の設備〉

(1)　荷物用エレベーター

容量2,500kg　45m／min　１基

(2)　乗用エレベーター

積載量750kg　11人乗45m／min　２基

(3)　電話設備　局線５回線　内線49回線

(4)　衛生設備　給排水設備一式

(5)　ガス設備及び避雷針設備

(6)　ガス燻蒸消毒設備

建　築　予　算

単位：千円

区　　分	44～46年度	47　年　度	48　年　度	49　年　度	計	財源内訳	
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫	
建　物　費	－	－	591,754	760,996	1,352,750		80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債	
初度調弁・その他	－	－	3,240	35,400	38,640		1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般	
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131		737,131

増　築　予　算

単位：千円

区　　分	３～４年度	５　年　度	６　年　度	７　年　度	計	財源内訳	
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債	
建　物　費	－	－	354,805	613,438	968,243		1,117,000
展示・資料費	－	1,500	141,784	310,534	453,818		
初度調弁・その他	－	－	－	11,000	11,000	一般	
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025		461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174		

ＮＭＰ21事業予算

単位：千円

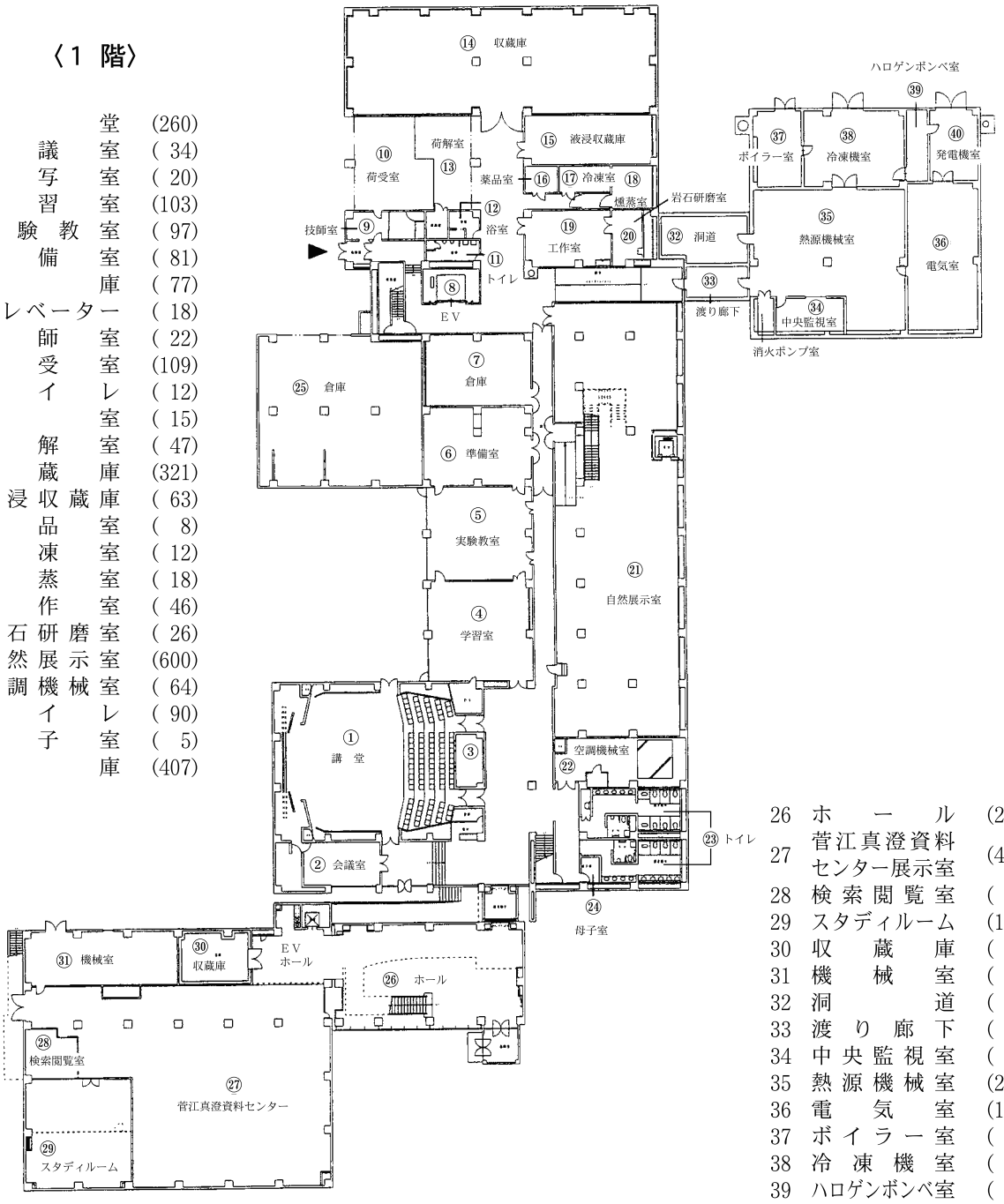
区　　分	11年度	13年度	継　続　費			小計	事業費合計	財源内訳	
			13年度	14年度	15年度				
工事請負費	－	－	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債	
委　託　費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725		1,516,000
調査事務費	5,250	－	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般	
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400		571,400

－各階平面図－

（ ）内の数字は面積（単位㎡）

〈１ 階〉

1	講堂	(260)
2	会議室	(34)
3	映写室	(20)
4	学習室	(103)
5	実験教室	(97)
6	準備室	(81)
7	倉庫	(77)
8	エレベーター	(18)
9	技師室	(22)
10	荷受室	(109)
11	トイレ	(12)
12	浴室	(15)
13	荷解室	(47)
14	収蔵庫	(321)
15	液浸収蔵庫	(63)
16	薬品室	(8)
17	冷凍室	(12)
18	燻蒸室	(18)
19	工作室	(46)
20	岩石研磨室	(26)
21	自然展示室	(600)
22	空調機械室	(64)
23	トイレ	(90)
24	母子室	(5)
25	倉庫	(407)



26	ホール	(242)
27	菅江真澄資料センター展示室	(464)
28	検索閲覧室	(23)
29	スタディルーム	(113)
30	収蔵庫	(40)
31	機械室	(83)
32	洞道	(42)
33	渡り廊下	(25)
34	中央監視室	(23)
35	熱源機械室	(206)
36	電気室	(110)
37	ボイラー室	(41)
38	冷凍機室	(73)
39	ハロゲンボンベ室	(16)
40	発電機室	(36)

部門別床面積(㎡)

展示部門	3,620
研究部門	388
収蔵部門	1,999
教育普及部門	595
計	6,602

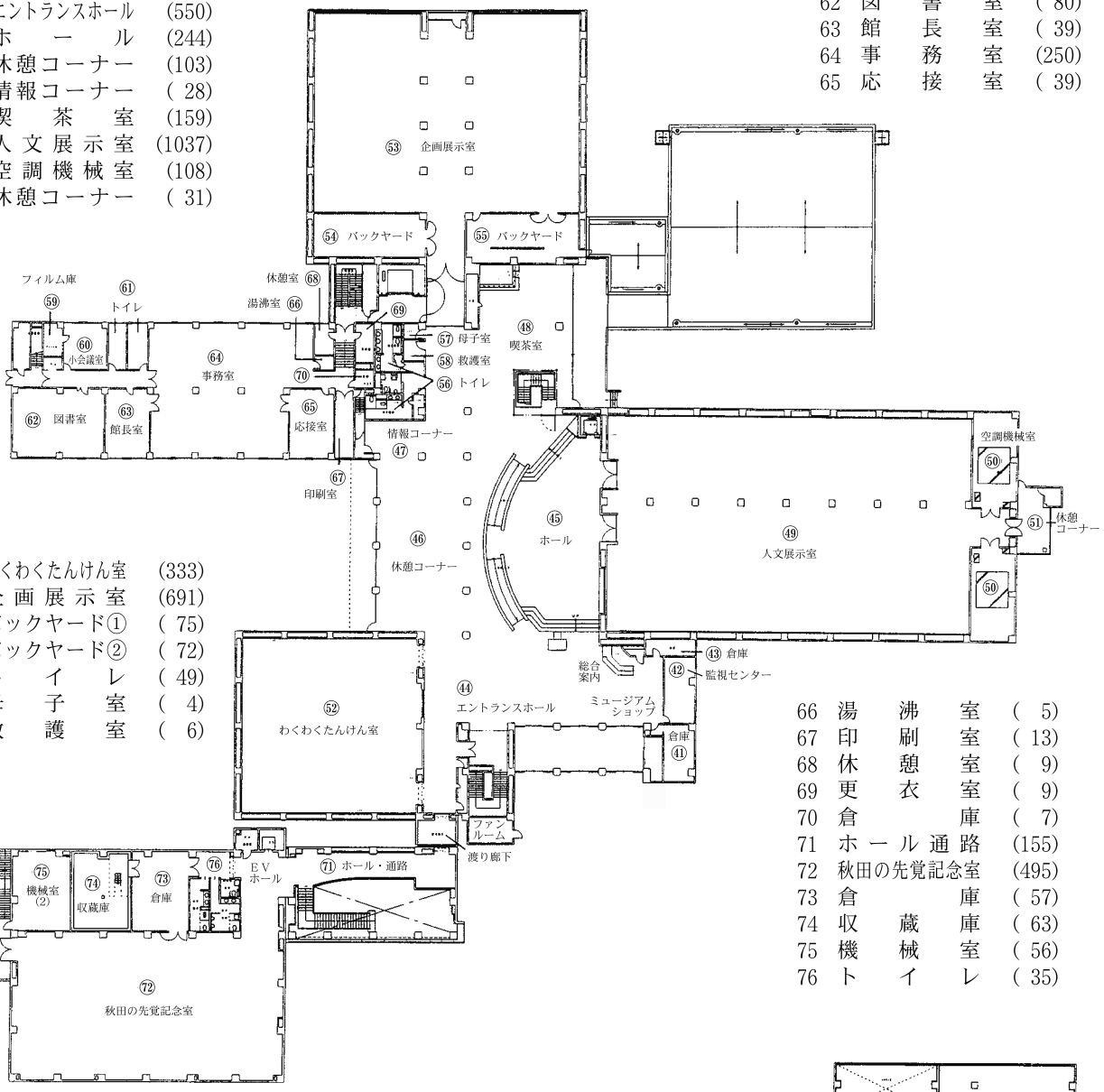
階別面積(㎡)

1階	4,546.578
2階	5,530.486
3階	1,706.694
屋階	162.44
計	11,946.198

〈2 階〉

41 倉　　庫 (23)
42 監視センター (25)
43 倉　　庫 (14)
44 エントランスホール (550)
45 ホ　ー　ル (244)
46 休憩コーナー (103)
47 情報コーナー (28)
48 喫　茶　室 (159)
49 人文展示室 (1037)
50 空調機械室 (108)
51 休憩コーナー (31)

59 フィルム庫 (9)
60 小会議室 (26)
61 ト　イ　レ (29)
62 図　書　室 (80)
63 館　長　室 (39)
64 事　務　室 (250)
65 応　接　室 (39)



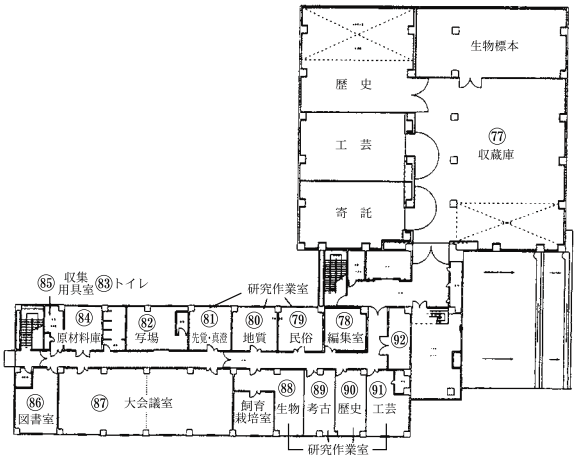
52 わくわくたんけん室 (333)
53 企画展示室 (691)
54 バックヤード① (75)
55 バックヤード② (72)
56 ト　イ　レ (49)
57 母　子　室 (4)
58 救　護　室 (6)

66 湯　沸　室 (5)
67 印　刷　室 (13)
68 休　憩　室 (9)
69 更　衣　室 (9)
70 倉　　庫 (7)
71 ホール通路 (155)
72 秋田の先覚記念室 (495)
73 倉　　庫 (57)
74 収　蔵　庫 (63)
75 機　械　室 (56)
76 ト　イ　レ (35)

〈3 階〉

77 収　蔵　庫 (840)
78 編　集　室 (27)
79 研究作業室(民俗) (28)
80 〃 (地質) (28)
81 〃(先覚・真澄) (27)
82 写場・暗室 (38)
83 ト　イ　レ (15)
84 原材料庫 (24)

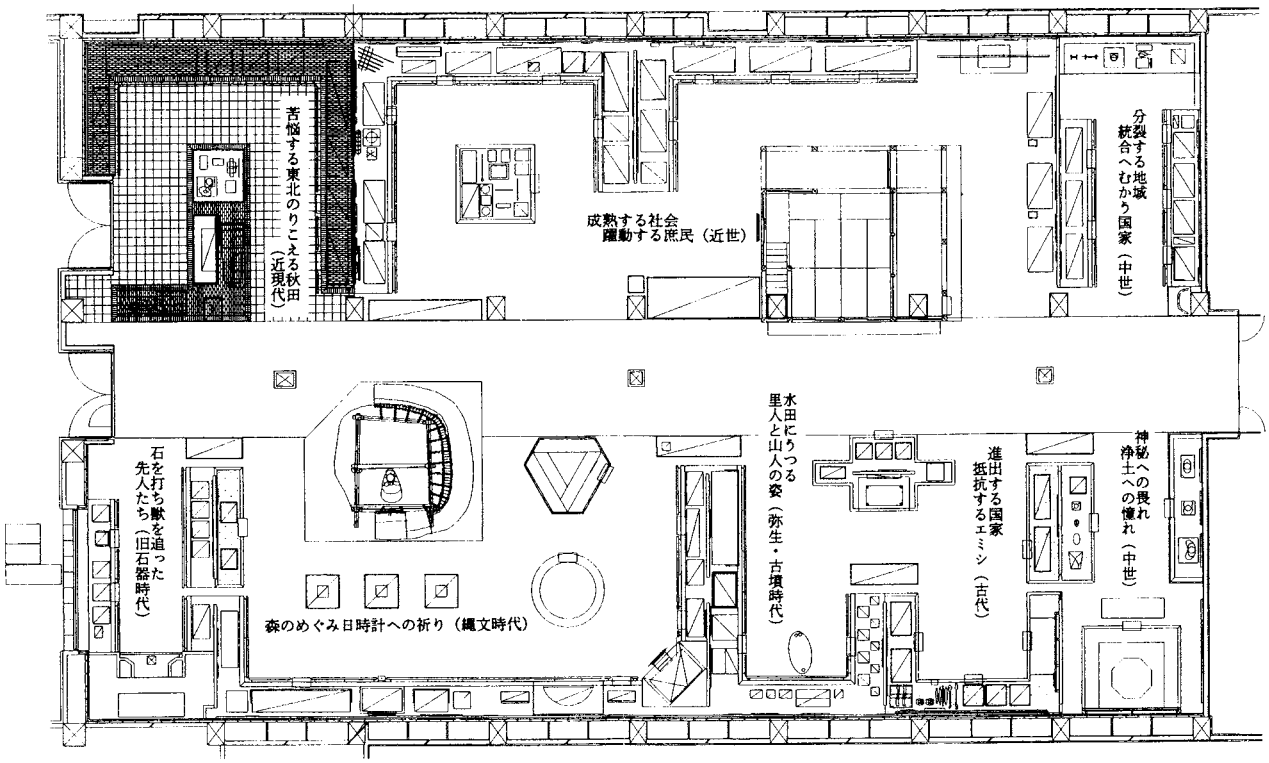
85 収集用具室 (10)
86 図　書　室 (34)
87 大会議室 (158)
88 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
89 研究作業室(考古) (27)
90 〃 (歴史) (27)
91 〃 (工芸) (39)
92 倉　　庫 (19)



Ⅲ 展　　示　　室

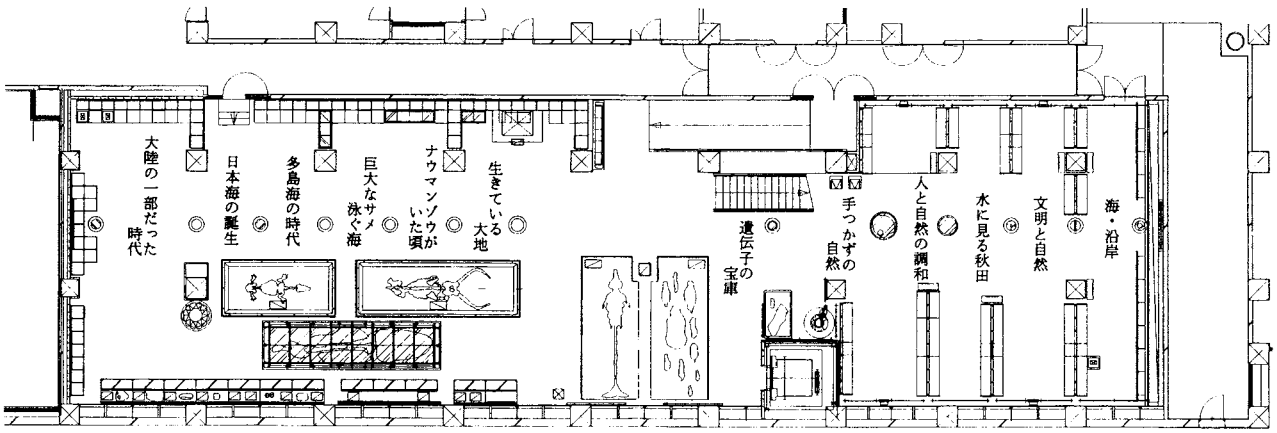
◘人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気のなかで自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

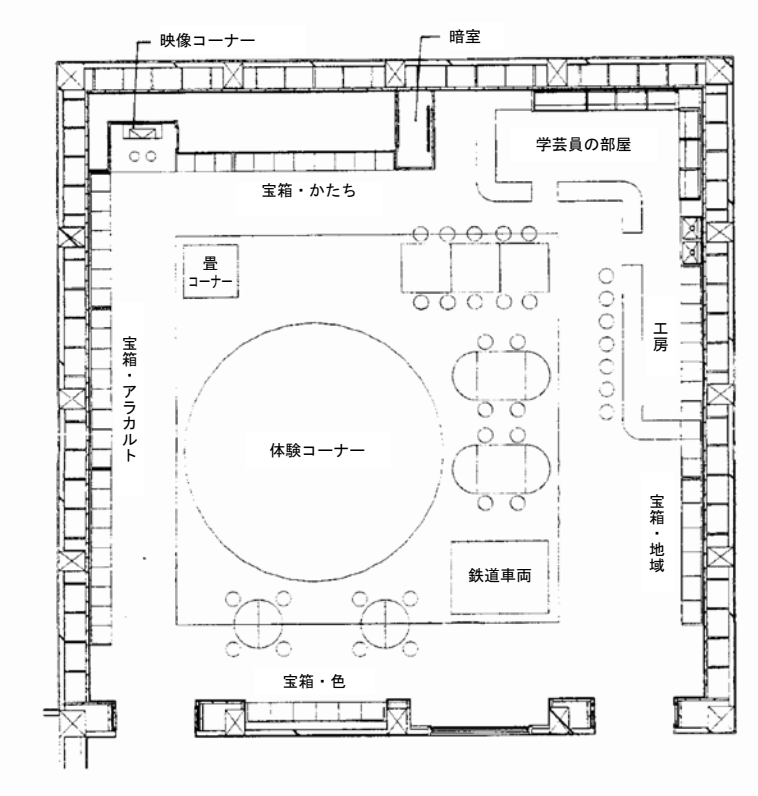


◘自然展示室

「いのちの詩」（生物）・「大地の記憶」（地質）の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きているそのままの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。

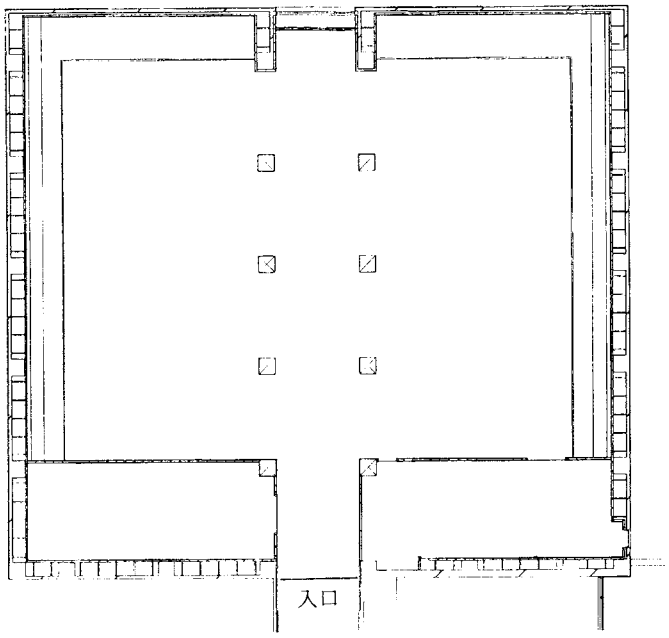


わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動をしながら秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。図書で調べものができる学芸員の部屋や、ビデオやDVDが見られる映像コーナーなどもある。

企 画 展 示 室

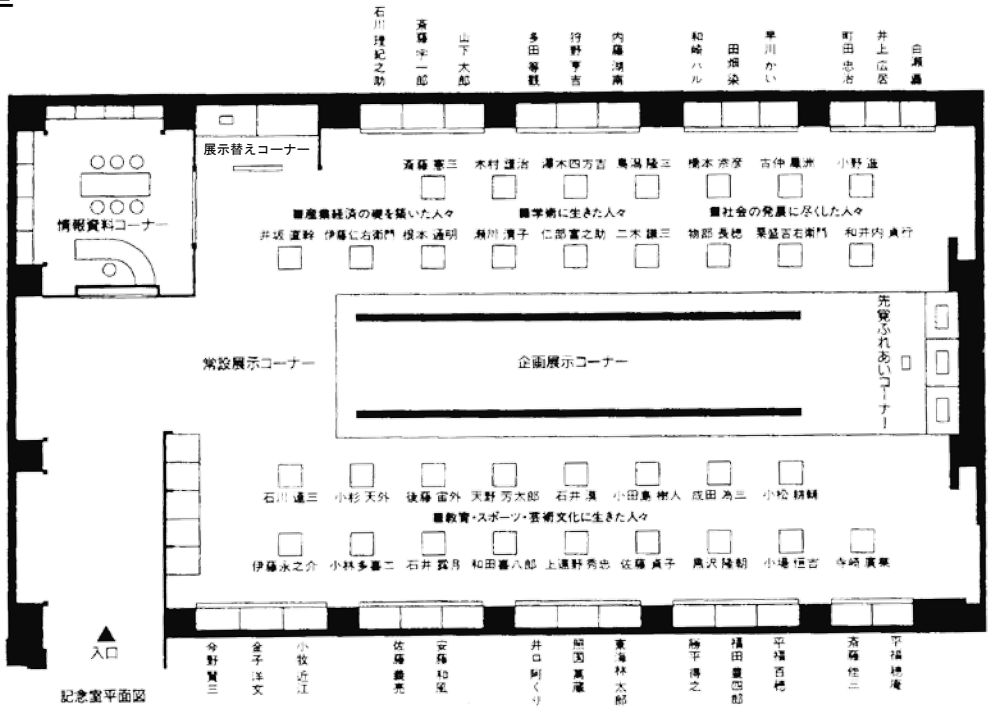


従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。

◆ 秋田の先覚記念室

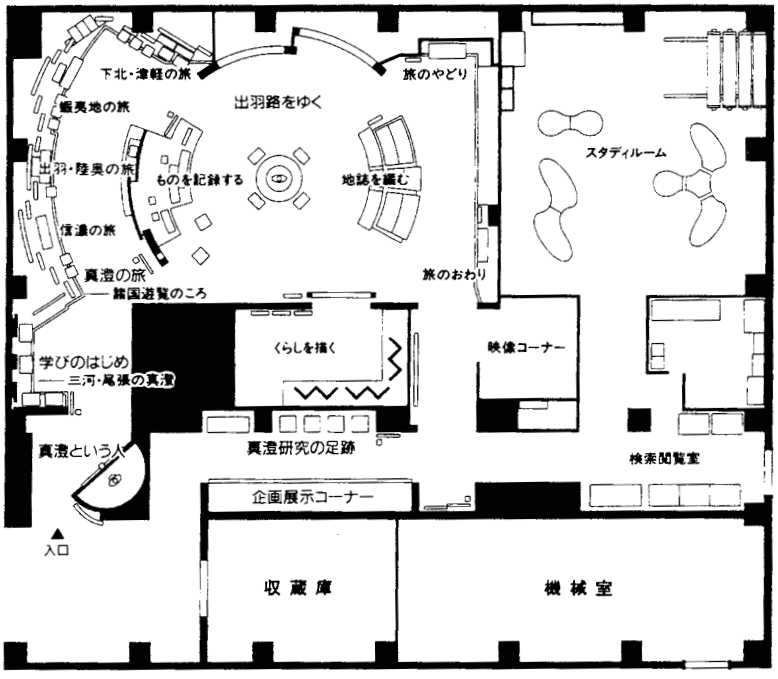
近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



記念室平面図

◆ 菅江真澄資料センター



資料センター平面図

江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディルーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

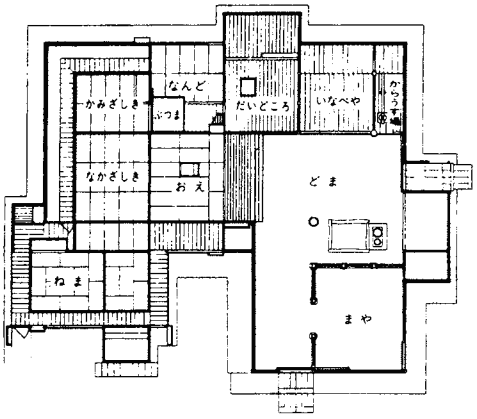
◘ 分館・旧奈良家住宅

所　　在　　地　　秋田市金足小泉字上前８　　電話 018（873）5009
旧　所　有　者　　奈良恭三郎（昭和44年５月寄贈）
昭和40年５月29日　重要文化財（建築面積　459.08㎡）

旧奈良家住宅はＪＲ東日本奥羽本線追分駅から2.5㎞、博物館から１㎞の男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉潟公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）９代喜兵衛が銀70貫と３年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



◘ 旧奈良家住宅附属屋

敷地内にある附属屋は平成18年３月に登録有形文化財に指定された

味噌蔵……明治７年に建造された、土蔵造の建物

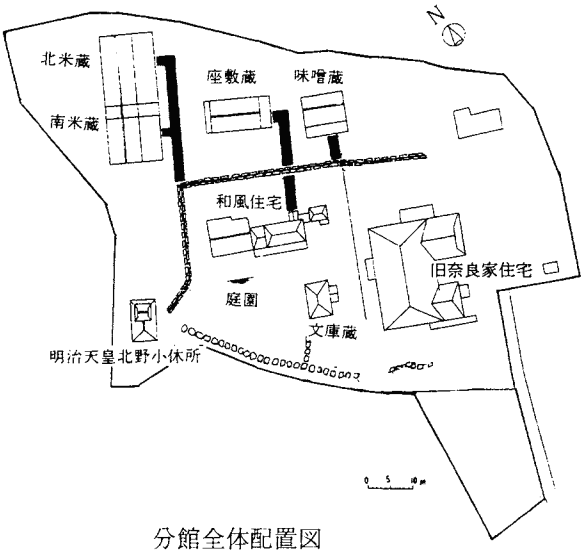
座敷蔵……明治23年に建造された、土蔵造の建物

米　蔵……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

明治天皇北野小休所（移築）……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

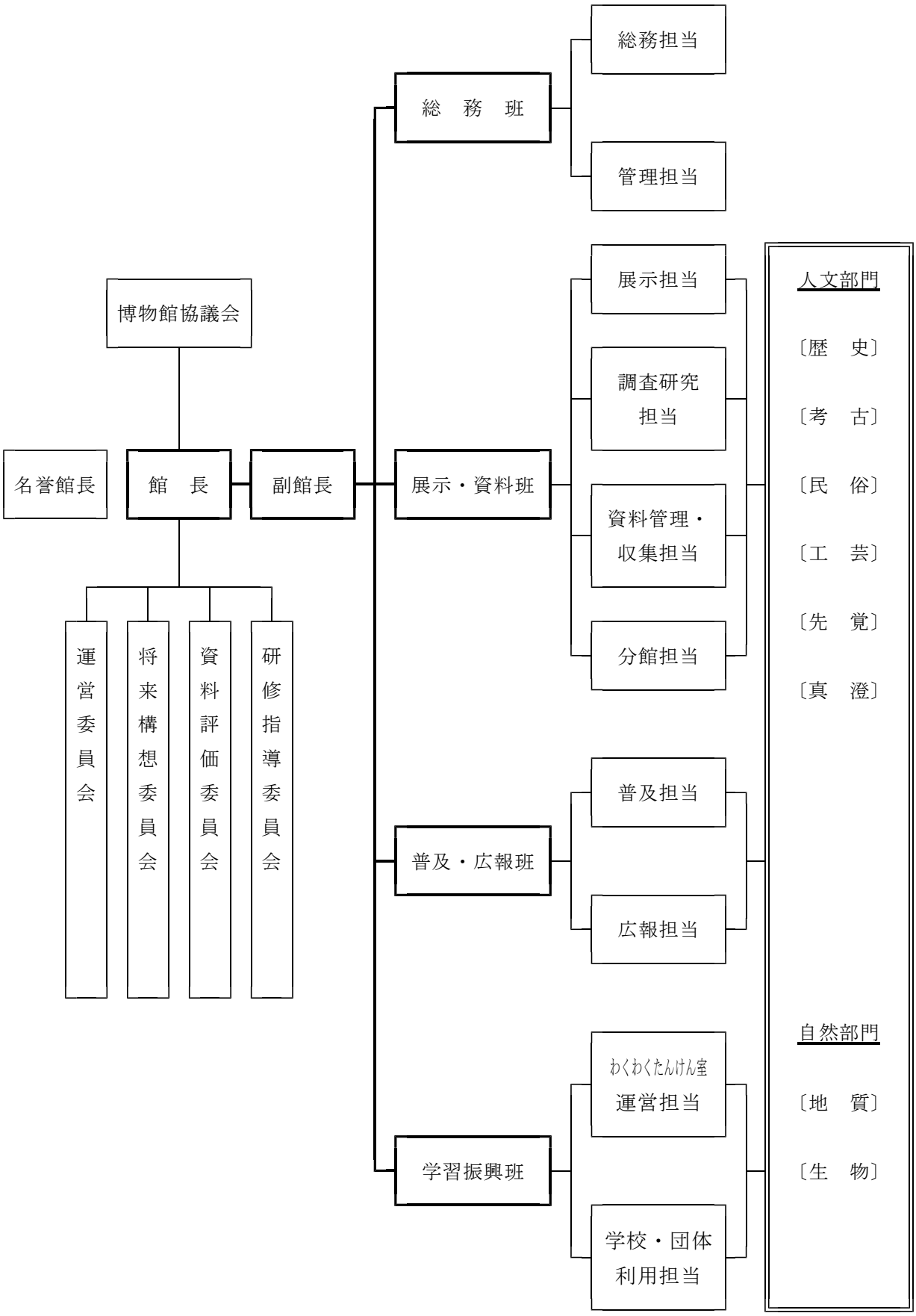
和風住宅……明治28年に建造された、木造二階建の建物

文庫蔵……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

Ⅳ　組　　織


博物館協議会
名誉館長
館　長
副館長
運営委員会
将来構想委員会
資料評価委員会
研修指導委員会
総　務　班
総務担当
管理担当
展示・資料班
展示担当
調査研究担当
資料管理・収集担当
分館担当
普及・広報班
普及担当
広報担当
学習振興班
わくわくたんけん室運営担当
学校・団体利用担当
人文部門
〔歴　史〕
〔考　古〕
〔民　俗〕
〔工　芸〕
〔先　覚〕
〔真　澄〕
自然部門
〔地　質〕
〔生　物〕

Ⅴ　職　　員

班名	職　名	氏　名	各班の分掌と部門担当
	館　長	髙　橋　正	総括
	副　館　長	柿　崎　仁　志	館長の補佐
総務班	副主幹（兼）班長	桑　原　智　幸	班の総括、危機管理に関すること
	副　主　幹	清　水　寿　子	服務、給与に関すること、歳入予算に関すること
	主　事	佐　藤　麗美奈	管理、営繕に関すること、歳出予算に関すること
	技能主任	武　田　光　彦	空調設備運転に関すること、施設設備管理に関すること
	技能主任	佐　藤　彰　洋	公用車運転に関すること、施設設備管理に関すること
展示・資料班	主任学芸主事（兼）班長	梅　津　一　史	班の総括、生物部門に関すること
	主任学芸主事	山　本　丈　志	工芸部門に関すること、展示企画・資料管理に関すること
	副　主　幹	新　堀　道　生	歴史部門に関すること、展示企画・調査研究に関すること
	副　主　幹	丸　谷　仁　美	民俗部門に関すること、資料管理・分館に関すること
	主　査(兼)学芸主事	松　山　修	真澄部門に関すること、資料管理・展示企画に関すること
	学芸主事	安　田　ゆきこ	考古部門に関すること、調査研究・資料管理に関すること
普及・広報班	主任学芸主事（兼）班長	藤　原　尚　彦	班の総括、工芸部門に関すること
	副　主　幹	加　藤　竜	考古部門に関すること、教育普及に関すること
	学芸主事	山　田　徳　道	考古部門に関すること、広報に関すること
	学芸主事	深　浦　真　人	民俗部門に関すること、広報に関すること
	学芸主事	黒　川　陽　介	歴史部門に関すること、教育普及に関すること
	学芸主事	斉　藤　洋　子	工芸部門に関すること、教育普及に関すること
学習振興班	主任学芸主事（兼）班長	池　端　広　樹	班の総括、地質部門に関すること
	副　主　幹	三　浦　たみ子	先覚部門に関すること、わくわくたんけん室運営に関すること
	学芸主事	佐々木　真　樹	地質部門に関すること、学校利用支援に関すること
	学芸主事	平　田　有　宏	先覚部門に関すること、学校団体利用に関すること
	学芸主事	藤　中　由　美	生物部門に関すること、学校団体利用に関すること
	学芸主事	角　崎　大	真澄部門に関すること、学校団体利用に関すること

［非常勤職員］

畑　澤　俊　視（ボイラー）
三　浦　信　一（　同　）
黒　沢　清　直（守　衛）
石　黒　　司（　同　）
林　　信　久（　同　）
鈴　木　　博（　同　）
虻　川　政　法（工　作）

加賀谷　洋　子（展示解説・案内）
小　林　純　子（　同　）
佐　藤　里　美（　同　）
舛　屋　みずほ（　同　）
関　谷　百　世（　同　）
工　藤　奈　緒（　同　）
吉　田　一　枝（　同　）
渡　辺　純　子（　同　）
佐　藤　智　春（　同　）
廣　嶋　綾　子（　同　）

嵯　峨　彩　子（学芸補助）
佐々木　由　衣（　同　）
大　野　幸　子（　同　）
藤　井　千　里（　同　）
唐津谷　浩　生（　同　）

事業の概要

Ⅰ　2019年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに歩む博物館運営に一層努め、県民文化の向上に寄与する。

1　本県の生涯学習を支え、推進する館運営を積極的に行う。

2　県民のニーズに応える博物館活動の在り方を追求する。

3　郷土秋田の自然や文化、歴史等に親しむことができる環境整備を図る。

4　県内外の博物館、類似施設、諸研究機関、教育機関、ボランティア団体等との連携を図る。

Ⅱ　2019年度博物館事業計画

1　重点目標

（1）　博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。

ア　県民の郷土理解・ふるさと教育に資する調査研究を計画的に推進する。

イ　調査研究の成果を広く一般に公開する。

（2）県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。

ア　長期的展望に立ち、計画的に資料を収集・整理する。

イ　収蔵及び展示資料のデジタルデータ化を推進し、効果的な活用を進める。

（3）驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。

ア　県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を実施する。

イ　打って出る博物館として、出張展示を積極的に実施する。

（4）各展示室の機能を検証し、展示室同士を有機的に結びつけ、効果的な利用を図る。

ア　常設展は変わらないという常識に挑戦する。

イ　各展示室の有機的なつながりを構築する。

（5）博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。

ア　ボランティア組織等と連携して、博物館教室等普及活動の充実を図る。

イ　諸機関との連携講座や出前講座等を推進し、博物館活動の普及に努める。

（6）　郷土に親しみと愛着がもてるような博物館活動の広報を行う。

ア　印刷物やさまざまな媒体を用いて博物館活動の様子と郷土の魅力を発信する。

イ　より緊密なネットワークを構築し、地域と県民のために貢献する。

（7）博物館利用の支援や促進に努め、県民の生涯学習の充実に資する。

ア　体験活動の充実を図る等、親しみやすい博物館運営に努める。

イ　内容や広報の充実を図ることで、学校団体によるセカンドスクール的利用を促す。

2　活動計画

調査研究

◇部門研究の推進

・歴史　江戸・明治前期における秋田の海運資料の調査
・考古　縄文土器底面敷物圧痕について
　秋田県の木組み井戸
・民俗　太平山信仰の広がりについて
　1964年の東京オリンピックを支えた秋田県人
・工芸　秋田県内におけるケラの製作技術
　収蔵美術品の悉皆調査
　苧麻から木綿へ　衣料生産における形態の変化について
・先覚　秋田の先覚者・斎藤佳三の業績の再確認と展示へ向けての調査
　斎藤宇一郎と斎藤憲三
・真澄　真崎文庫の写文に見る真澄遊覧記
　真澄の書簡について
・地質　八峰白神ジオパークの化石資料の調査
　男鹿半島の化石の調査・分類
・生物　秋田県産メムシガ類（チョウ目スガ科）の標本収集とリスト作成
　秋田県に生息する蟻類の種類と生息調査

◇共同研究、博物館学的研究の推進

・男鹿市寒風山の火入れ地の植生（生物）
・当館への外国人来館者数（団体含む）と案内・解説の現状調査
・博物館「出前授業」「出張わくわくたんけん室」の認知度調査～県内の特別支援学校の教員を対象として～

資料収集管理

◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

◇資料データベース化の推進

◇収蔵庫管理の推進

◇燻蒸消毒作業

・収蔵庫
　◎燻蒸期間　９月６日(金)～９月13日(金)

展示

◇展示活動

・企画展示室における企画展・特別展
　企画展「秋田県博の自然史標本」
　　４月27日(土)～６月23日(日)
　特別展「1964－世界の祭典から半世紀－」
　　７月13日(土)～９月１日(日)
　企画展「北前船と秋田」
　　10月５日(土)～11月17日(日)
　企画展「山と生きる」
　　12月７日(土)～令和２年４月５日(日)
・菅江真澄資料センター企画コーナー展
　「Letter from 真澄－真澄からの便り－」
　　７月６日(土)～８月25日(日)
　「湯沢・雄勝を記録する」
　　10月19日(土)～12月８日(日)
　「真澄、八郎潟周辺を歩く」
　　令和２年３月14日(土)～５月17日(日)
・秋田の先覚記念室企画コーナー展
　「斎藤宇一郎と斎藤憲三」
　　９月28日(土)～11月24日(日)
・ふるさとまつり広場
　端午の節句　　４月９日(火)～５月12日(日)
　鹿島信仰　　５月21日(火)～６月23日(日)
　七夕絵どうろう　　７月２日(火)～９月１日(日)
　秋田の布　　９月19日(木)～10月13日(日)
　年祝い　　10月26日(土)～11月24日(日)
　ナマハゲ　　12月３日(火)～１月19日(日)
　アイリスの会作品展
　　１月24日(金)～２月28日(金)
　ひな人形・押絵
　　令和２年３月３日(火)～４月５日(日)
・常設展示室における可変展示

・出張展示
秋田県立図書館
亀田城佐藤八十八美術館
仙北市立田沢湖図書館
角館樺細工伝承館
横手公園展望台（横手城天守閣）

教育普及

◇博物館教室・講演会
（1）化石と地層の観察会　5月26日(日)、6月2日(日)
（2）昆虫教室－採集と標本づくり－
7月21日(日)、8月18日(日)
（3）夜の昆虫観察会　7月27日(土)
（4）くん製教室　初級編　9月22日(日)
（5）昆虫同定技術入門　10月13日(日)
（6）はじめての真澄学－今さら聞けない真澄－
6月16日(日)、12月15日(日)
（7）初めての古文書解読
5月9日、5月16日、5月23日、5月30日、
6月6日、6月13日(いずれも木曜日)
（8）「真澄に学ぶ教室」講読会－県外の日記を読む－
5月25日、6月22日、7月27日、8月24日、
9月28日、10月26日、11月23日、12月21日、
1月25日、2月22日(いずれも土曜日)
（9）土器作り教室　7月28日(日)、9月1日(日)
(10) 三浦館・旧奈良家住宅合同見学会　9月25日(水)
(11) 縄文土器の縄を知ろう　9月29日(日)
(12) 古文書修復体験教室　10月12日(土)、10月26日(土)
(13) 拓本体験教室　10月24日(木)
(14) 民俗学入門講座　12月8日(日)、12月22日(日)
(15) 秋田の先覚者　2月8日(土)、2月15日(土)
(16) 初めての藍の絞り染め
5月11日(土)、5月29日(水)、5月30日(木)、
5月31日(金)、6月1日(土)、7月6日(土)、
7月17日(水)、7月18日(木)、7月19日(金)、
7月20日(土)
(17) キッズ編組講座　7月24日(水)
(18) 樹皮を編む～オニグルミで作る小物入れ～
10月2日(水)、10月3日(木)
(19) ミニコダシを編む～男鹿に伝わるトジナコダシの技術～　11月7日(木)
(20) ゼロからはじめるわら仕事
11月20日(水)、11月27日(水)、12月4日(水)
(21) 糸をつむぐ　11月21日(水)
(22) 未来の学芸員養成講座
8月3日(土)、8月4日(日)
(23) 「真澄に学ぶ教室」講演会第1回　7月14日(日)
(24) 秋田の先覚記念室講演会　11月3日(日)
(25) 「真澄に学ぶ教室」講演会第2回　11月10日(日)

◇名誉館長館話
（1）「秋田城の歴史的意義」
①奈良時代の秋田城　5月10日(金)
－秋田の文化度と秋田城の建設－
②平安朝における秋田城とその対外性　6月7日(金)
③武家時代の秋田城の存在　7月5日(金)
（2）「秋田の先覚」　8月以降に広報

◇イベント
（1）「軒の山吹」再現　4月27日(土)～5月1日(水)
（2）「盆踊りと世界の踊りとオリンピック展」
7月中旬
（3）ミュージアム･コンサート　令和2年3月

◇ミュージアム･トーク

◇展示付帯事業

◇館外講座
（1）出前講座（県庁出前講座）
（2）出張講座
（3）出前授業
（4）連携講座
（5）その他

◇県内外の博物館等類似施設との連携
（1）日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会
（2）秋田県博物館等連絡協議会
（3）秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ
（1）博物館実務実習（大学）
（2）中堅教諭等資質向上研修
（3）教育センターと連携した研修

広報・出版

◇広報活動

・事業に関する広報計画の策定と実施
　展示・イベント広報
　配布・発送計画
・その他の広報活動の実施と改善
　ホームページ、フェイスブックページの充実
　プレスリリースの充実
　広報資料、出版物等の管理
　館内掲示物の管理

◇出版物の刊行・配布

・年報　2019年度　　Ａ４判　45頁　　1,000部
・博物館ニュース№169・170
　　Ａ４判　８頁　各2,300部
・秋田県立博物館研究報告第45号
　　Ａ４判　　90頁　　600部
・広報紙「真澄」№37　　Ａ４判　　８頁　1,500部
・真澄研究第24号　　Ａ５判　100頁　　500部
・秋田の先覚記念室企画コーナー展展示解説資料
　　Ａ４判　　８頁　1,000部
・展示ポスター、広報チラシ
　企画展「秋田県博の自然史標本」
　特別展「1964－世界の祭典から半世紀－」
　企画展「北前船と秋田」
　企画展「山と生きる」

学習振興

◇わくわくたんけん室の運営

・一般及び団体利用の促進
・展示室との連携と企画運営
・季節イベントや季節アイテムの計画立案
・体験アイテムの保守管理
・消耗品の補充管理
・博物館ボランティアとの連携
・出張わくわくたんけん室の企画運営
・新アイテムの開発

◇学校団体の利用促進

・学校団体のセカンドスクール的利用の促進
・出前授業の広報及び促進
・学校団体利用の集計・報告
・学校利用の分析

◇その他、教育的支援

・高校生インターンシップ、ボランティア活動と職場体験の受け入れ
・「教員のための博物館の日」（８月１日(木)）の計画と実施
・教員長期社会体験研修の受け入れ
・大学との地域連携

分館・重要文化財旧奈良家住宅

◇分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成31年４月２日(火)から令和２年３月31日(火)まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開。附属屋については内部公開の希望に応えるために令和元年９月25日(水)に公開し学芸職員が解説を行うほか、適宜公開する機会を設ける予定である。

Ⅲ　平成30年度事業報告

1　調査研究活動

部門研究は、収蔵資料の研究、特別展･企画展実施に向けた調査が主なテーマとなった。いくつかの研究成果は当館の研究報告などの刊行物や、特別展･企画展への反映という形で公開された。

「研究報告第44号」には、８件の論文、報告、翻刻等が掲載された。「真澄研究」には４件の論文等が掲載された

調査研究報告会は、情報共有のための館内報告会と、秋田県生涯学習センターでの一般公開の報告会という形で例年通り実施した。

部門研究

◇考古

（1）「縄文土器底面敷物圧痕について」

平成29年度より開始した縄文土器底面敷物圧痕の研究を継続した。発掘調査報告書掲載資料を対象とする悉皆調査を開始し、平成30年度は県教育委員会発行分について集成を行った。作業は継続中であるが、時期的・地域的な傾向について、館内調査研究報告会で中間報告を発表した。

◇歴史

（1）「歴史資料による高校日本史の授業の研究」中世編

平成29年度では、全体の流れを俯瞰したが、平成30年度は実践編として、博物館教室で取り上げた「秋田の中世」についての授業への応用を検討した。

地元の史料のない古代や地元史料が豊富にある近世と比較して、太閤検地や関ヶ原の戦など歴史的出来事に関わる地元の動きを見ていくことで、地域史への関心を持たせることができるように考えられる。

古代についても続日本紀をはじめ中央の史料の中に秋田の状況を適宜織り交ぜていくこと、近世においても秋田藩の史料をテーマに合わせて適切に使うことが、今後の課題となる。

（2）「守屋家資料の研究」

昭和50年の開館以来、未整理のままで収蔵されている守屋家資料の整理を行った。整理作業は「秋田県立博物館友の会 古文書整理ボランティア」のメンバーと共に行った。

（3）「松本家資料の整理と研究」

全体の箱詰め・封筒詰めを終了し、約600点のデータ入力を行った。経営帳簿類の相互関係について、ピックアップ的にいくつかの帳簿の記事を精査し検討した。

◇民俗

（1）「市町村史から見る1964年東京オリンピック」

2019年度の特別展「1964―世界の祭典から半世紀―」に向け、秋田県内の市町村ではどのような取り組みをしていたか調査した。その一環として、各市町村史（平成の大合併前の旧69市町村）の記述を通して、東京オリンピックがどのように記録されていたか調査した。各市町村によって編纂目的も違うため、オリンピックについての記述があった市町村は、27市町村であった。今後は、当時の新聞を調査し、市町村の動向を調査していきたい。

（2）「阿仁マタギの行商用具について」

平成30年度アイヌ工芸品展「キムンカムイとアイヌ～春夏秋冬～」のため、県内のマタギに関する資料調査を行った。中でも北秋田市阿仁地区で明治時代から平成にかけて使われていた薬の行商用具についての調査を詳細に行った。行商用具の中には、明治38年から昭和18年までの行商記録が残されており、行商範囲や販売した薬について整理をした。

◇工芸

（1）「浅舞絞りの染めと文様」

平成30年度は、横手市浅舞の「浅舞絞り」に焦点をあて、平成７年当館で実施された企画展「秋田の染めと織り」で展示された資料14点を調査した。浅舞絞りの特徴を整理するために、実際の着物に使われている絞り方や染め方を１点ずつ調査し、伝搬元の有松・鳴海絞りと比較した。有松・鳴海絞りは、数々の絞り器や絞りの見本帳や絞りと同時に色の変化も表れる文様などの開発もしていたことが明らかになった。これに対して浅舞絞りは、着物を長く活用することや布地の再活用という意識も見られるなど、布地を大切にする人々の意識の元で育まれた伝統技術であることを明らかにすることができた。

（2）「編組品にみる地域性の研究」

研究の対象を編組品とし、情報の不足を補うべく、５年にわたって調査を進めてきた。平成30年度は、本県の男鹿のアオツヅラフジ細工と能代市犬伏の竹細工に焦点をしぼり、聞き取り調査と資料調査、資料の実見を行った。

これまで調査した県内13地域の編組品について記録をまとめた結果、地元に自生した植物を素材とし、その特色に応じた編み方を選択するという特徴をもった地域と、同一素材でも異なる技術を選択する特徴をもつ地域があることが明らかとなった。つまり本県で編組品を製作する地域には大きく２つの傾向があることがみえてきた。

今後の課題として、本県の特徴をより明確に把握するために、比較対象として全国の編組品について、より理解を深め特徴をとらえていきたい。

◇生物

（1）「秋田県に生息する希少動物の生態調査」

森吉山に生息するクマゲラは４年連続で繁殖を確認できなかったが、約40年にわたる調査結果を研究報告にまとめた。キタオウシュウサンショウウオは産卵地内の環境が安定し、平成30年度は無事に繁殖した。

（2）「秋田県産マルハキバガ科の標本収集とリスト作成」

これまでに採集した標本について、交尾器の検鏡も行いつつ同定し、22種を見出した。これまでの県内の文献上の記録が11種だったので倍増したことになる。また、県内で採集されていたキバガ上科の不明種について精査し、エダモグリガ科の日本未記録種である可能性が高いことがわかった。

◇地質

（1）「秋田県の地質遺産に関する調査」

男鹿市や男鹿周辺の市町村の地質遺産について調査を実施した。男鹿半島は火山活動による独特な地形や美しい海岸線から国定公園にも指定され、東北で初めて日本ジオパークの認定となった地域でもある。現地では、安田海岸の鮪川層や安田層の化石や舘山崎の熱変性した火山礫凝灰岩なども確認することができた。また、男鹿半島南側の船越海岸から脇本海岸では、黒曜石も採集することができた。これら採集資料については、今後の部門展示で公開する予定である。

（2）「三脚石器の地質環境」

東日本に分布する珪質頁岩は、頁のように板状に割れやすく耐性に優れた材質が石器に適していたことから、当該地域では石器に加工して利用されていた。珪質頁岩を素材とする三脚石器は、秋田県米代川流域及び八郎潟周辺、山形県米沢盆地、新潟県信濃川流域の３地域に集中する。三脚石器が出土した地域の地質環境を調査した。

◇秋田の先覚記念室

（1）「先覚者小場恒吉に関する調査」

平成30年に没後60年を迎える秋田市出身の文様研究者、小場恒吉に関する調査を行った。伝記、列伝、研究文献等で小場の経歴、事績、人物像の把握を行い、並行して小場に関する資料の所在調査を行った。３月に秋田の先覚記念室内の展示替えコーナーにて、当館収蔵資料に他館からの借用資料を加え、小規模なものであるが、小場関係の資料の展示を行った。今後も調査を継続し、より深い先覚者の紹介に繋がるよう努めていきたい。

（2）「民族音楽の研究者　黒沢隆朝」

平成30年度は、国立音楽大学附属図書館、同楽器学資料館と川村学園において、黒沢隆朝関係資料の調査を行った。附属図書館では、隆朝が出版した『台湾高砂族の音楽』の草稿があることが判明した。また、楽器学資料館では、隆朝が東南アジアなどで収集した楽器のほかに、インドネシアで収集した舞踊の仮面もあることが分かった。川村学園では、隆朝の肖像写真が掲載されている川村女学院の戦前の卒業アルバムを確認した。以上の調査を踏まえて、企画コーナー展を計画し実施した。

◇菅江真澄資料センター

（1）「佐藤太治兵衛家に関する調査」

企画展「菅江真澄、記憶のかたち」を開催するにあたって、初公開資料として展示した「旧佐藤太治兵衛家の板壁」（実物資料）の聞き取り調査をしていたところ、分家に「佐藤太治兵衛家先祖代々仏名」という掛軸があることがわかった。そこには、初代と目される人物から、文化文政期から明治時代にかけての歴代当主とその家族のことが記されていた。これまで、佐藤太治兵衛については、真澄が雄勝郡を巡遊した文化11年（1814）の当主との交流のみ考えられており、宛名が異なる６通の書簡も、当主の幼名などとして考えられてきた。しかし、歴代の幼名が判明したことから、その説を見直すことになった。論考を『真澄研究』第23号に発表した。

（2）「真澄が記録したアイヌ」

アイヌが使う入れ物にテンキというものがある。テンキグサ(ハマニンニク)を材料とすることからそう呼ばれる。現在多く残されている実物は、巻編み技法で作られた小物入れのような形状をしているが、真澄が日記『えみしのさえき』に描いたテンキは、それらとは異なり、袋状になっている。そして、これとよく似た袋状のテンキの実物が象潟の個人宅に残されている。おそらくハマニンニク製の小物入れ全般を指して、広くテンキと称したのであろう。

また、真澄がこのテンキを記録したのは1789年（寛政元年）であるが、これはテンキを記録した書物としては、古い資料であると言える。それ以前にテンキについて記録したものとして確認できるのが、松前藩家老松前廣長の『松前志』（1781、天明元年）のみであるので、真澄の残したテンキの記録は、アイヌ資料の歴史的な観点から見ても貴重なものと言えるだろう。

調査研究報告会

◇館内調査研究報告会

標記の会を平成31年１月28日(月)と２月５日(火)に本館大会議室で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順)。

・１月28日

1　浅舞絞の染めと文様　齋藤知佳子
2　男鹿半島、大潟ジオパークの地質関連調査　池端広樹
3　市町村史から見る1964年東京オリンピック　深浦真人
4　秋田県産のマルハキバガ科蛾類の知見　梅津一史
5　森吉山鳥獣保護区特別保護地区におけるクマゲラの生態　船木信一
6　縄文土器底面敷物圧痕について　加藤　竜
7　三脚石器の地質環境　山田徳道
8　素材と技術からみた編組品産地の特色と地域性　斉藤洋子
9　秋田の先覚者・小場恒吉について　三浦たみ子
10　「足栗毛」に盗用疑惑？－広重作品の画像利用－　新堀道生
11　秋田の先覚記念室企画コーナー展「民族音楽の研究者黒沢隆朝」の展示を終えて　平田有宏
12　明治２年　保呂羽山波宇志別神社神主守屋造酒進の秋田藩士召立てについて　畑中康博
13　講読会、一素材についての覚書　松山　修
14　歴史資料による高校日本史の授業の研究（中世編）　佐藤　隆

・２月５日

1　阿仁マタギの行商範囲について～明治から昭和初期までの記録から～　丸谷仁美
2　真澄が記録したアイヌ　角崎　大

◇調査研究報告会（公開報告会）

標記の会を平成31年３月16日(土)に生涯学習センター３階講堂で開催した。報告内容は次のとおりである（報告順)。一般参加者は101名であった。

1　浅舞絞りの染めと文様　齋藤知佳子
2　真澄が記録したアイヌ　角崎　大
3　「足栗毛」に盗用疑惑？－広重作品の画像利用―　新堀道生
4　阿仁マタギの行商用具について～明治から昭和初期までの記録～　丸谷仁美
5　秋田の中世における資料を使った郷土学習について　佐藤　隆
6　森吉山鳥獣保護区特別保護地区におけるクマゲラの生態　船木信一

研究報告等の発行

◇『研究報告』第44号

森吉山鳥獣保護区特別保護地区におけるクマゲラの生態　船木信一・中野明
森吉山鳥獣保護区特別保護地区におけるクマゲラの音声分析　船木信一
秋田県内で採集されたカザリバガ科蛾類　梅津一史
2014年に男鹿半島安田海岸の海食崖に形成された海食洞（２）　渡部晟・澤木博之・鈴木秀一・渡部均
素材と技術からみた編組品の産地の特色と地域性－秋田県内の事例を中心として－　斉藤洋子
名誉館長館話実施報告抄　新野直吉
［翻刻］難破物語　新堀道生・秋田古文書同好会

「足栗毛」における広重「狂歌入東海道」等の転用　新堀道生

◇『真澄研究』第23号

真澄の文体の変遷と執筆年代の推定について　嵯峨彩子

佐藤太治兵衛は一人だったのか　松山　修

企画展図録補遺　第六章〈地誌を編む〉開帖部分解説

資料紹介　「内田武自身の年譜」

2　資料収集管理活動

平成30年度中に寄付等で新たに登録された資料は1,365点であった。収蔵スペース不足の対応として、比較的余裕があった寄託収蔵庫において、既存の棚の段数を増やしてより高密度に収納したほか、中２階上に館内製作した木製棚を新たに設置して床置きされていた資料を収納するなどした。

館内での文化財害虫の発生が引き続き散見される。また、展示室の温湿度の変動が時期によって大きくなる場合があるが、24時間空調になっていないことから改善は困難であるのが現状である。

資料収集・整理・保存・管理

◇平成30年度収集資料一覧

部門	資　料　名	数量	受入区分
歴史	舘岡恒人家資料	168	寄付
	浅野鐵夫氏遺品	102	寄付
	軍服など	5	寄付
民俗	天神人形（木彫）他	19	寄付
	大足　他	6	寄付
	薩摩琵琶	1	寄付
	押絵	1	寄付
	ビデオデッキ　ほか	2	寄付
生物	維管束植物標本	189	寄付
	維管束植物標本	481	寄付
	アカマダラハナムグリ	1	寄付
	カワラハンミョウ	1	寄付
	アカナマダ	1	委託製作
	フデガイ	1	寄付
	維管束植物標本	131	寄付
地質	仙北隕石（レプリカ）	1	寄付
	貝化石ほか	43	寄付
先覚	成田忠久資料一式	132	寄付
真澄	雪の出羽路平鹿郡写本	3	寄付
	内田ハチ旧蔵資料	16	寄付
総集	ＤＶＤ一式	61	寄付
合　計（件数）		1,365	(21)

◇平成30年度資料収集状況

平成31年３月末日現在の資料総数（　）は平成30年度分

	購　入	寄　付	委託製作	所管換え	採　集	その他	合　計
総集	2,917	198 (61)	626	18	0	0	3,759 (61)
美術	415	25	2	8	0	0	450 (0)
工芸	7,371	6,327	1	13	0	0	13,712 (0)
歴史	5,125	3,537 (275)	113	184	0	73	9,032 (275)
考古	245	2,174	31	190	0	0	2,640 (0)
民俗	2,280	7,772 (29)	120	36	4	0	10,212 (29)
生物	17,345	95,013 (804)	7,729 (1)	36	1,654	0	121,777 (805)
地質	3,556	2,918 (44)	1,408	18	9,148	0	17,048 (44)
先覚	131	5,236 (132)	12	0	0	2	5,381 (132)
真澄	143	1,775 (19)	11	300	0	0	2,229 (19)
合計	39,528 (0)	124,975 (1,364)	10,053 (1)	803 (0)	10,806 (0)	75 (0)	186,240 (1,365)

◇平成30年度館蔵資料貸出状況（目的別）

貸出先		県内外別			目的別				
		県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	計
博物館等		7	4	11	11				11
教育機関	大学	4		4		4			4
	高等学校								
	中学校								
	小学校	1		1			1		1
	その他	1		1			1		1
研究所・文化団体									
出版報道機関									
都道府県									
市町村		2	1	3	3				3
個人									
その他			1	1		1			1
計		15	6	21	14	5	2		21

◇平成30年度資料特別利用状況

目的別

利用者		県内外別			目的別						
		県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他
博物館	都道府県立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市町村立	4	1	5	1	0	0	0	4	0	0
	その他	0	2	2	0	0	1	0	2	0	0
企業	出版	27	25	52	49	0	0	0	0	0	0
	映像	6	6	12	2	10	0	0	0	0	0
	TV	6	9	15	0	15	1	0	0	0	1
	その他	8	6	14	7	0	1	0	3	3	0
教育機関	大学	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0
都道府県		14	4	18	2	0	15	0	1	1	0
市町村		8	2	10	2	0	3	0	4	1	0
個人		30	5	35	12	2	5	0	2	14	0
計		105	60	165	76	27	26	0	17	19	1

部門別

部門	利用数	利用内容					
		写真撮影	写真掲載	画像等貸与	映像録画	館内閲覧	その他
工芸	4	1	1	1	1	0	0
考古	13	3	11	6	2	2	0
歴史	24	1	21	8	4	1	11
民俗	13	3	9	4	1	0	2
生物	1	1	0	0	0	1	0
地質	6	1	4	0	0	2	1
先覚	15	0	15	2	0	0	12
真澄	86	1	72	53	8	2	12
その他	2	2	2	0	0	0	1
計	164	13	135	74	16	8	39

※利用内容は重複があるので実際の利用数より多い。
※一度の申請に複数の部門が関わっていることがあるため、利用数の合計と利用者数の合計とが異なっている。

データベース化の推進

平成28年度までコンテンツ追加を行ってきた「デジタルアーカイブ&アプリケーション開発事業」では携帯端末の専用アプリによる画像閲覧を提供してきたが、同様の内容を県立図書館のデジタルアーカイブで公開していることと経費の問題から、2019年度以降継続するか検討中である。

燻蒸消毒および虫・害菌管理

燻蒸消毒は平成30年９月３日(月)～９月10日(月)に、アルプ（酸化プロピレン）を使用し、３階収蔵庫のうち歴史・工芸・寄託収蔵庫と、先覚記念室収蔵庫を燻蒸した。秋博協加盟館から受け入れた燻蒸資料も同時に燻蒸した。小型燻蒸機は酸化エチレン製剤により寄贈・借用資料の搬入時に使用した。30年度の稼働回数は11回であった。

3　展示活動

平成30年度の特別展「あきた大鉄道展HE−30系」はＪＲ東日本秋田支社と当館で構成する実行委員会形式で実施した。マスコミ関係以外の民間企業との１対１での実行委員会形式は当館としては初めての経験で、進め方に戸惑うこともあった。また、県立美術館県民ギャラリーを第２会場とした２会場での展開も初めての試みであったが、人員の配置が間に合わず生涯学習課の助力を得た。苦労は多かったが好評を得ることができた。

アイヌ文化振興・研究推進機構巡回展は、機構側からの実施提案を受けた形で行われたものである。作業内容の分担など、当初の見込み通りにならなかった部分もあり、担当者が調整に苦労した部分もあったが、大変充実した展示で、冬場としてはかなり来館者が多かった。

出張展示は昨年度に近い回数の実施となり、博物館の利用者の拡大に大いに寄与している。開催会場が固定化しつつあることは気になる点である。また、本館の企画展・特別展実施担当者が出張展示も担当している場合が多く、業務が過重になっている感がある。

企画展ほか

企画展「あきたびじょんセレクション−秋田を見つける９のテーマ」平成30年４月29日(日)～６月22日(金)

＜展示概要＞

地域研究の一つの形として実施した展示で、従来の郡市単位の展示ではなく、テーマ毎の展示という形を取った。テーマは以下の９つでそれぞれに見合う展示を部門毎に展開した。シリアスな内容が多かったが、展示をじっくりと見る観覧者が多く、所々に準備した意見募集

にも多数の意見が寄せられた。

また、最終章では、県民参加型イベントを募集し、サプライズライブという形で展示室内での演奏、舞踊などを行って展示の一部を構成する試みを実施した。これは大変好評で、実演中は多くの観覧者が見入っていた。肩肘の張らないライブで実演者も博物館側も気軽に実施できた。

＜展示構成＞

1　荒ぶる大地
　鳥海山（噴火、山体崩壊、湧水）、十和田火山（噴火、三湖伝説、火山泥流、胡桃館遺跡等）

2　「あきたびじょん」のはじめ
　菅江真澄遊覧記、東遊雑記、秋田風俗絵巻、足栗等

3　自然の恵みと共生
　かまくら図屏風、山菜類、編組、狩猟、炭焼き等

4　開発の夢
　真崎堰絵図、改良社文書、適産調絵図、干拓、秋田湾開発構想図面等

5　豊かな自然、翻弄される生命
　クニマス、クマゲラ、外来種、ペット等

6　秋田の温暖化
　北上する昆虫類、食卓を直撃する魚介類の変化等

7　人口減少は「負」か
　人口変遷の論議、生態系の中の人口減

8　新しいエネルギーの形
　資源の転換と現代、風力発電のメリット・デメリット、バードストライク等

9　高質な田舎を求めて
　ハタハタをめぐる質、天然記念物を食らう、世界にはばたく縄文文化、西馬音内盆踊り、伝統工芸、無形民俗文化等

＜付帯事業＞

サプライズライブ「西馬音内盆踊り」　6月2日(土)
サプライズライブ「クラリネットアンサンブル」
6月16日(土)

担当：船木信一（生物）
新堀道生（歴史）
丸谷仁美（民俗）

◇特別展「あきた大鉄道展　HE−30系」

第1会場　秋田県立博物館　平成30年7月14日(土)～8月26日(日)　午前9時30分～午後4時30分
第2会場　秋田県立美術館　平成30年8月3日(金)～8月26日(日)　午前10時～午後6時

＜展示概要＞

1　本館とＪＲ東日本秋田支社とによる実行委員会形式での開催。

2　展示は、秋田の鉄道史を俯瞰し、鉄道の魅力を十分に伝える。第1会場は列車、第2会場は駅と旅という具合にテーマを分けて展示を行った。

3　観覧料　大人800円／高校生・大学生500円／小中学生200円／幼児以下無料。一枚の観覧券で二会場を観覧するタイプの券のみ販売した。

＜展示構成＞

○第1会場（秋田県立博物館）

0番線　鉄道のテツ学
1番線　秋田に鉄道が来た
2番線　鉄道のまち土崎
3番線　秋田機関区
4番線　日本国有鉄道の誕生
5番線　ダイヤ改正と秋田
6番線　あきた平成鉄道史

７番線　鉄路の記憶

〇第２会場（秋田県立美術館）

１番線　駅の表情

２番線　駅のポスターに見る現代鉄道史

３番線　食とアイテム収集の楽しみ

４番線　秋田ならではの鉄道風景

５番線　特選映像

＜付帯事業＞

〇第１会場（秋田県立博物館）

（１）開館記念セレモニー　７月14日(土)

（２）盆踊りと世界の踊りと鉄道展　７月21日(土)

（３）手こぎトロッコ運転会　７月28日(土)・29日(日)

（４）講演会（由利高原鉄道　春田啓郎氏）　７月29日(日)

（５）ＪＲ東日本秋田総合車両センターミニＳＬ運転会　８月４日(土)・５日(日)

（６）汽笛吹鳴体験　８月11日(土)・12日(日)

（７）ＪＲ貨物ミニ機関車運転会　８月19日(日)

（８）Ｎゲージ模型運転会（プロジェクション･マッピングつき）　（会期全日程）

〇第２会場（秋田県立美術館　県民ギャラリー）

（１）ＨＯゲージ鉄道模型運転会　８月４日(土)・５日(日)・25日(土)・26日(日)

担当：畑中康博（歴史）

◇企画展「菅江真澄、記憶のかたち」～没後190年記念展　平成30年９月22日(土)～11月４日(日)

＜展示概要＞

今回の企画展は、ここ十年では、平成20年度の企画展「あきた遺産、菅江真澄～没後180年記念展」、平成26年度の国民文化祭に合わせておこなった特別展「菅江真澄、旅のまなざし」に続く開催となった。

菅江真澄資料センターでおこなう通常の展示では、真澄の著作内容を紹介することを重視する点などから、当館が所蔵する写本を中心に紹介しているが、今回の企画展は、没後190年の記念展であるため、展示会場いっぱいに自筆本（重要文化財「菅江真澄遊覧記」、秋田県指定文化財「菅江真澄著作」）を展示することから、構成を決めていくことになった。加えて、真澄の大きな特徴であり魅力にもなっている図絵を数多く見ていただくことを考え、第一章「旅と日記」、第六章「地誌を編む」では、２週間ごとに丁替えをおこなった。

また、資料所蔵者の方々からの御協力を得て、冊子以外の掛軸・短冊・実資料などのいわゆる「遺墨資料」を展示したほか、平成26年の特別展以降、その存在が明らかとなったり展示可能になったりした資料を「初公開資料」として紹介した。それらを含めた約200点の資料を展示した。

＜展示構成＞

〇企画展示室

第一章　旅と日記…信濃の旅から秋田の旅まで

第二章　記録の視点～ところ、ためし、うつわ

第三章　交流の譜…人との交流を示す遺墨資料

第四章　学びの方法…真澄はどのように学びを深めたか

第五章　名所を謳う…土地のよさを歌や図絵に表現する

第六章　地誌を編む…平鹿郡と仙北郡の詳細な記録

〇ふるさとまつり広場

真澄を楽しむ…学び方・読み方それぞれ

＜初公開資料＞　『榊葉日記』など６点

＜関連事業＞　４事業

（Ⅰ）菅江真澄没後190年記念シンポジウム（兼）全国菅江真澄研究集会（共催／菅江真澄研究会）
秋田県生涯学習センター３階講堂　９月29日(土)

（Ⅱ）真澄講話会「はじめての真澄学」３回（協力／菅江真澄研究会）
10月５日(金)、10月19日(金)、11月２日(金)

（Ⅲ）ビデオ上映会「菅江真澄の旅」（紀伊國屋書店制作）３回
９月28日(金)、10月12日(金)、10月26日(金)

（Ⅳ）展示解説会３回
９月23日(日)、10月14日(日)、10月28日(日)

担当：松山　修（真澄）
角崎　大（真澄）

◇アイヌ工芸品展「キムンカムイとアイヌ　－春夏秋冬」　平成30年11月24日(土)～平成31年１月23日(水)

＜展示概要＞

当館とアイヌ民族文化財団の共催で行った本展は、アイヌ語で「山にいる神」を意味するキムンカムイ（ヒグマ）に焦点を当てた内容であった。アイヌ文化を理解するうえで欠かせない、アイヌとクマの濃密な関係を、アイヌが狩猟のために用いた弓矢、日常生活の中で使用した小刀や織機、儀式の際に身につけた色鮮やかな衣服や装飾品など、約310点の豊富な資料を通して紹介した。また秋田開催ということで、出かせぎや交易で北海道に渡った人々が収集してきたアイヌ関連の資料や、アイヌと同様に儀礼を守り、厳しい戒律のもと、山中で獣を追ってきたマタギに関する資料も展示した。

＜展示構成＞

〇企画展示室
プロローグ　－アイヌの世界観
第一章　春～夏
第二章　夏～秋
第三章　秋～冬
映像資料　－白老アイヌの生活
第四章　冬・イヨマンテ
第五章　秋田とアイヌ
第六章　マタギの世界

〇ふるさとまつり広場
アイヌの紹介及び秋田と北海道の関わり

＜付帯事業＞

１）ギャラリーツアー
講師：山崎幸治氏
（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）
日程：11月24日(土)

２）講演会及びアイヌの歌・踊り
「アンレスカムイ－貴く愛しいクマ神」
講師：北原モコットゥナシ・次郎太氏
（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）
「アイヌの歌・踊り」
演者：アイヌ民族文化財団職員
日程：12月９日(日)

3）ワークショップ
「アイヌの矢作りと体験」
講師：アイヌ民族文化財団職員
日程：12月23日(日)

4）ワークショップ及び対談
「ツキノワグマ×ヒグマ」
講師：葛西真輔氏（知床財団保護管理研究係主任）
小松武志氏（北秋田市くまくま園園長）
コーディネーター：船木信一（当館主任学芸主事）
日程：１月12日(土)
担当：角崎　大（真澄）
丸谷仁美（民俗）

◇菅江真澄資料センター　企画コーナー展

〔第76回企画コーナー展〕真澄とアイヌ
平成30年７月14日(土)～８月26日(日)

菅江真澄が蝦夷地(現在の北海道)を訪れたのは、天明８年(1788)のことだった。それから４年半あまりの歳月を北海道で過ごし、その間真澄は、先住民族アイヌと交流し、その様子を詳しく文章と図絵で記録に残す。本展では、アイヌの生活や文化を真澄がどのように捉えたかを「１．アイヌの人々」、「２．アイヌの暮らし」、「３．アイヌの信仰」と題し、三つの観点から考えた。また、真澄の日記写本とともに、アイヌの実物資料も紹介した。

（展示資料）片口、杯、天目台、捧酒箸、煙草入れ、口琴、刀鞘、首飾り、靱皮衣、えぞのてぶり、鉤銛、編み袋、えみしのさえき、花矢、木幣

担当：角崎　大（真澄）

〔第77回企画コーナー展〕遊覧記刊行の舞台裏
平成30年９月29日(土)～11月11日(日)

菅江真澄に関する学習は、『菅江真澄遊覧記』（平凡社東洋文庫、全５巻）と『菅江真澄全集』（未来社、全12巻・別巻一）を基本テキストにしておこなわれる。前者は親しみやすい現代語訳としてよく読まれ、後者は真澄の著作を網羅したものとして真澄の学習には欠くことができないもので、どちらの出版も宮本常一と内田武志が編纂者として名を連ねている。特に『菅江真澄全集』は、刊行を終えてから37年が経った現在でも真澄研究の根幹であり、そこでの内田武志の論は真澄研究の指針にもなっている。

本展では、『菅江真澄全集』出版にかかわる事柄について、内田武志の資料（館蔵）と宮本常一の資料（宮本常一記念館蔵）から探った。

＜展示構成＞一枚の写真、全集刊行の経過、宮本常一記念館の資料から、菅江真澄研究所の活動、宮本常一と内田武志、宮本常一がみた秋田

担当：松山　修（真澄）

〔第78回企画コーナー展〕
真澄の歩いた道『すすきの出湯』
平成31年３月16日(土)～令和元年５月12日(日)

菅江真澄の日記『すすきの出湯』は、現在の大館市大滝温泉・十二所・比内、北秋田市森吉の周辺を歩いた際に記したものである。それぞれの地で古くから伝えられてきたであろう歴史、文化、習俗の下、そこに暮らす人々がどのような生活を送っていたのかを真澄は詳細に記録している。真澄が記録したものの中には、現代ではすでに失われてしまったものや忘れ去られてしまったものもある。本展では、日記『すすきの出湯』の中から、いくつか印象的なトピックを取り上げ、「１．白糸の滝へ、再び」、「２．菅笠と金山の話」、「３．農村で迎える賑やかな新年」と題して、真澄の歩いた道を辿りながら、改めてふるさと秋田の魅力とは何かについて考えた。

（展示資料）雪の秋田根、木の葉石硯、菅笠、にえのしがらみ、すすきの出湯、くめじの橋、鉈、苧桶、宝引用具、奥のてぶり、つがるのつと、すみかの山、月の出羽路仙北郡二十一巻、十二所かまくらやき映像資料

担当：角崎　大（真澄）

◇秋田の先覚記念室企画コーナー展　民族音楽の研究者　黒沢隆朝　９月29日(土)～11月25日(日)

黒沢隆朝は童謡作家のほか、音楽教科書の編集者や民族音楽の研究者としても活躍した、鹿角市出身の音楽家である。今回の展示では自作の童謡集『可愛い童謡』や自ら編集した音楽教科書のほか、草稿や東南アジアで調査した際に描いた現地の楽器の彩色スケッチを含め、約60点の資料を展示した。

付帯事業としては、11月４日(日)に講演会「歌曲演奏における「ことばと音楽の関係」を探る」を開催し、多くの参加者に歌唱の楽しさを体感していただいた。また、高校生によるロビーコンサートを、10月21日(日)に秋田西高校、11月25日(日)に金足農業高校の各吹奏楽部を招いて、ドイツ民謡で隆朝が作詞した「山の音楽家」などを演奏していただき、いずれも70人を超える方々に鑑賞していただいた。

なお、本展の開催にあたり、武石佳久氏や藤井百合子・健二郎氏をはじめ、国立音楽大学楽器学資料館、川村学園などから協力をいただいた。

＜展示構成＞

1　生い立ち
2　『可愛い童謡』を出版
3　「音楽教科書の大家」
4　民族音楽研究を生涯のテーマに
5　その他の功績
6　隆朝の遺したもの
7　隆朝をめぐる秋田の先覚者
（成田為三・小田島樹人・川村文子）

担当：平田有宏（先覚）

◇可変展示

〔自然展示室〕

自然展示室の可変展示コーナーでは、「知ってそうで知らない秋田の温泉－温泉を科学の目で見てみよう－」（平成30年３月30日(金)～８月10日(金)）、「カブトムシのピース」（８月11日(土)～３月８日(金)）、「スミレの花咲く頃」（平成31年３月９日(土)～）の３つの展示を行った。

「知ってそうで知らない秋田の温泉」では、県内の温泉の成分などについての解説と、硫黄泉水やヨウ素泉水の実物、掘削に用いるボーリングビットなどを展示した。

「カブトムシのピース」では、昆虫の細部の構造の細密スケッチと実物標本を置き、気づきにくい微細な構造を紹介した。

「スミレの花咲く頃」では、県内で見られるスミレをアクリル封入標本や写真で紹介し、種の区別点などを紹介した。

担当：梅津一史（生物）

〔ふるさとまつり広場〕

平成30年度は民俗部門ならびに企画展や特別展の付帯展示を行った。特に付帯展示については展示の導入となり、より展示に興味をもってもらう呼び水となることができた。来年度も季節感のある展示は堅持しつつ、企画展や特別展の付帯事業展示にも使用し、展示についてより興味を持ってもらえるような場としたい。

－平成30年度の展示－

天神人形　　４月８日(日)～５月13日(日)
鹿島船　　５月15日(火)～６月17日(日)

七夕絵どうろう　　６月19日(火)～７月８日(日)
あきた大鉄道展付帯展示
７月14日(土)～８月26日(日)
菅江真澄、記録のかたち付帯展示
９月22日(土)～11月４日(日)
キムンカムイとアイヌ付帯展示
11月24日(土)～１月23日(水)
ひな人形・押し絵
２月26日(火)～平成31年４月７日(日)
担当：深浦真人・丸谷仁美（民俗）

〔ロビー展示〕
秋田県埋蔵文化財センター「ほってわかった、払田柵跡45年」　　４月29日(日)～６月22日(金)
庫太郎の四つの仕事－平野庫太郎回顧展－
２月12日(火)～３月31日(日)
今年度は２つの展示をロビーで実施した。１つ目の「ほってわかった、払田柵跡45年」は、設立から45年を迎えた払田柵跡調査事務所による普及事業に伴う出張展示であり、６月17日(日)に行われた講演会に合わせて調査事務所の吉川耕太郎氏によるロビー展示解説も行われた。２つ目は、平成30年８月に逝去した元秋田県立美術館長平野庫太郎の回顧展を「庫太郎の四つの仕事～平野庫太郎回顧展～」として行った。館蔵の収蔵品を含めた19件の資料を展示した。
会期中は、足を止め展示資料やパネルの説明をじっくり見たり、質問したりする姿が見られた。関心がある来館者には満足してもらったことはもちろん、これまでこの分野にあまり興味がなかった来館者にも新たな興味や関心づくりとなった。
担当：齋藤知佳子（工芸）

◇出張展示、他施設との連携展示

①「後藤宙外－『文壇との交流』と『生涯』」
(秋田県立図書館)
平成30年４月１日(日)（前年度３月24日から開催）
～５月28日(日)
観覧者数：3,471名（前年度分を含むと4,286名）

②「輝きの中の鉱物たち」　(仙北市立田沢湖図書館)
７月12日(木)～８月４日(土)　　観覧者：239名

③「「秋田にいる昆虫」標本コレクション2018」
(あきたふるさと村ドーム劇場)
７月14日(土)～８月26日(日)　　観覧者：24,124名

④「秋田の甲虫」
(白神山地世界遺産センター「藤里館」)
７月20日(金)～８月29日(水)　　観覧者：3,410名

⑤「水底の宝石展」
(横手公園展望台（横手城天守閣）)
９月28日(金)～10月24日(水)　　観覧者：1,373名

⑥「矢島大鉄道展」　(矢島郷土文化保存伝習施設)
10月４日(木)～12月２日(日)　　観覧者：628名

⑦「男泣き家電ランドin仙北市」(角館樺細工伝承館)
11月３日(金)～１月28日(月)
観覧者：約3,292名

⑧「真崎コレクション展　菅江真澄と描画資料」
(大館市立栗盛記念図書館)
11月17日(土)～11月25日(日)　　観覧者：60名

展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、照明・映像・音響機器などの点検を実施し、不具合がある場合はその都度対応した。

展示室清掃では自然展示室の剥製・骨格陳列スペースと人文展示室の近代の露出部を清掃した。

解説案内サービス業務

来館者の方々に、親しみある解説活動を実施するために、次の３点の重点項目を設定して解説業務を行った。

（１）展示内容の正確な理解と来館者に応じたわかりやすい解説の創意工夫

（２）誠意ある応対の実施

（３）職員内情報を共有し来館者対応に活かす

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Ｑ＆Ａを分担した。昨年度に引き続き冬期間にＱ＆Ａ作成に重点的に取り組んだ。また、９月３日(月)に解説員館外研修を北秋田市で実施した。民俗、歴史の分野で解説員が理解を深めることができた。

分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成30年４月１日から平成31年３月31日まで公開した。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開した。附属屋については内部公開の希望に応えるために、平成30年９月14日(金)に公開し、担当学芸職員が解説を行った。なお、９月14日は秋田市金足黒川にある三浦館（重要文化財）の見学もあわせて行った。

4　教育普及活動

博物館教室は異動等により、平成30年度も講座数は23（平成29年度25）、参加者数1,283名（平成29年度1,854名）と共に減少した。ただ、打って出る博物館の一環として実施している館外講座は県庁出前講座、出張講座、出前授業、連携講座、その他を合わせて3,151名（平成29年度2,961名）と好評で、全体として普及活動は年々増加傾向にある。

イベントは例年同様４月下旬～５月上旬に「軒の山吹」再現をアイリスの会の協力を得て実施（214名来館）、７月には特別展「あきた大鉄道展HE－30系」とコラボレーションする形で「盆踊りと世界の踊りと鉄道展」を実施し、200名の来館者に楽しんでいただいた。３月には恒例のミュージアムコンサート「ジャズで巡る博物館」が実施され、世界の民謡とジャズ、博物館の資料がコラボレーションして88名の観覧者に楽しんでいただいた。

博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会加盟館の役員会、総会、実務担当者研修会、燻蒸サービスを実施したほか、秋田市内文化施設連絡会議（みるかネット）の事業であるギャラリートークセッション等へ参加した。

ボランティア「アイリスの会」には新しく博物館教室の受講生の集まりから発生した「藍チーム」が生まれ、出前授業等に全面的な支援を受けた。なお、ボランティア組織の改編を目指して「友の会」のボランティアと「アイリスの会」の統合が検討されている。

また、大学生の博物館実務実習等の各種研修に対応した。

普及行事

◇館内講座

平成30年度より、博物館教室をはじめ館内で行われる普及活動全般について、普及･広報班でまとめて把握する形とした。内訳は以下のとおり。

①博物館教室　57回、1,283名

②イベント・講演会･ミュージアムトーク等　28回、1,109名

③展示付帯事業等　29回、960名

④その他　11回、319名

①博物館教室の内訳は別表のとおり。回数･受講者数

ともに減少したが、②～④の他の講座を合わせると３千人を大幅に超える受講者となり、充実した講座内容といえる。

①の減少は職員側の事情によって左右されるが、それに対応して②～④の回数を増やすなど、館内の普及活動のバランスのとれた充実を図ることが課題となる。

	教　室　名	回数	人数
1	釣り教室	5	101
2	化石と地層の観察会	2	7
3	昆虫教室～採集と標本作り～	2	32
4	夜の昆虫観察会	1	16
5	昆虫同定技術入門	1	5
6	真澄に学ぶ教室講読会	9	268
7	初めての藍染め	3	167
8	秋田の中世	2	53
9	秋田の古代	1	27
10	土器作り教室	2	39
11	ちびっこ染め教室	1	35
12	生葉染め教室	1	28
13	三浦館・旧奈良家住宅合同見学会	1	18
14	樹皮で編む編組品	4	52
15	菅江真澄没後１９０年記念シンポジウム	1	170
16	初めての古文書解読	6	67
17	古文書修復教室	2	14
18	森・もりアート	1	3
19	秋田の先覚記念室講演会	1	27
20	ゼロからはじめるわら仕事	3	70
21	民俗学入門講座	3	63
22	くん製教室　初級編	1	12
23	未来の学芸員養成講座	4	9
合　計		57	1,283

名誉館長館話		回数	人数
前期	秋田の古代	2	97
後期	秋田の先覚	3	89
合　計		5	186

◇名誉館長館話

今年度の名誉館長館話は以下のテーマで行われた。

・前期『秋田の古代』

①５月18日(金)「国造制と東北」

②７月13日(金)

「後三年合戦－清原氏の性格と合戦－」

・後期『秋田の先覚』

③９月14日(金)

「雄物川水運－東廻海運と西廻海運－」

④10月12日(金)

「石川理紀之助－全日本的存在の農聖－」

⑤11月16日(金)

「後藤宙外－宙外と三外そして文人の彼－」

６月17日(日)に払田柵調査事務所との共催で講演「わたしの古代史研究と払田柵」を行っているため、計５回の実施となった。受講者数はあわせて186名であり、平成29年度と同じ水準であった。なお、払田柵の講演の受講者は101名であり、あわせると300名近くとなる。

◇館外講座

平成29年度より、県庁出前講座を含めて館外で行われる普及活動をまとめて普及･広報班が把握する形となった。全体で50回、3,151名の受講者であった（平成29年度より21回の減、190名の減）。それぞれの内訳は以下のとおり。

①出前講座　　８回、　332名

②出張講座　　35回、2,246名

③出前授業　　４回、　416名

④連携講座　　１回、　101名

⑤その他　　２回、　 56名

回数の大幅な減は、連携講座の減によるものであるが、受講者は出張講座が大幅に増加したため、平成29年度とほぼ変わらなかった。

なお、①県庁出前講座の内訳は次のとおり。

・博物館の魅力について　　２回

・博物館資料から考える秋田の原始・古代　０回

・秋田のくらし・行事　　４回

・秋田県の絶滅のおそれのある野生生物　　２回

⑤はトークイベントや出張展示ギャラリートークなど。

◇その他行事

・『軒の山吹』再現　　参加者数：214名

４月29日(日)～５月３日(木)

・『盆踊りと世界の踊りと鉄道展』　　７月21日(土)

特別展「あきた大鉄道展HE－30系」とコラボレーションする形で実施した。平成29年度に引き続き、人文展示室を会場とし、地元の保存会の方による西馬音内の盆踊り、東京から参加したダンサーによるバリ舞踊、今年より新たに参加したベリーダンスと、様々な世界の踊りが披露された。展示室内という狭いスペースでのイベントだったため、広報は控えめにしたが、200名（平成29年240名）の来館があり、好評だった。

・ミュージアムコンサート「早川泰子の“ジャズで巡る博物館”Vol.２」　３月17日(土)

進駐軍のピアノを使用した恒例のコンサートを平成30年度は博物館の資料とコラボレーションしながら行った。演奏者が資料から得たインスピレーションをもとに選曲し、職員とトーク・解説を行ってから演奏するというスタイルで実施し、好評を得た。88名の参加があった。

他施設・他団体との連携

◇秋田県博物館等連絡協議会（略称：秋博協）

（１）役員会、総会　５月31日(木)
　会場：美郷町歴史民俗資料館（美郷町）
　総会参加20館28名

（２）実務担当者研修会　２月21日(木)
　会場：秋田県立博物館学習室（19館25名参加）
　講演：「グラフィックデザインの考え方」
　講師：武藤　正彦　氏
　（秋田市新屋ガラス工房　広報企画マネージャー）
　実技：「美術品の取り扱いと梱包について」
　講師：北林　悟　氏
　（日本通運秋田支店　美術品作業スタッフ）

（３）燻蒸消毒サービス　９月３日(月)～９月10日(月)
　７施設が利用

（４）秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」
　加盟各施設が掲載内容を随時更新した。

（５）会報の発行『秋博協だより』第53号

◇博物館「友の会」

「友の会」の活動内容は以下のとおり。

（１）役員会・総会　４月21日(土)

（２）秋田学を深める研修１～３
　①美郷町千畑地区の自然と歴史を訪ねる　６月13日(水)
　②地域再生大賞受賞団体に学ぶ　７月27日(金)
　（注）大館地区であったが参加者０のため中止
　③男鹿の早春の自然観察　３月20日(水)

（３）県外研修１～３
　①アイヌの歴史と文化を学ぶ　６月27日(水)～29日(金)
　②平安宮跡探訪　12月１日(土)～３日(月)
　③神奈川県の博物館視察　１月26日(土)～27日(日)

（４）各ボランティアによる活動
　・古文書整理ボランティア（12名）毎週水曜日活動
　・秋田古文書同好会（17名）毎週金曜日活動
　・植物標本ボランティア（12名）毎週火曜日活動
　・考古ボランティア（15名）隔週土曜日活動
　・地質ボランティア（１名）随時活動

（５）友の会だより　第47号

（６）印刷物等配布　年４回

◇博物館ボランティア「アイリスの会」

博物館ボランティア「アイリスの会」は、今年度より新たに藍チームを加え、お話・織・図書・藁・藍の５チーム編成で活動に取り組んでいる。

お話チームは、わくわくたんけん室での「おはなし会」の実施、講演会等の受付など来館者へのサポートを中心に活動した。

織チームは、わくわくたんけん室での体験補助を中心に活動し、「裂き織り体験」の補助を充実させた。

図書チームは、図書資料の整理（考古図書も含む）活動、会員通信「時計」の編集・発行、館内壁新聞の編集・掲示、各種研修の企画・運営を行った。

藁チームは、定期的にワラ細工の製作技術研修を実施しながら、博物館教室や学校団体利用のワラ細工体験を支援した。年末にはしめ飾り作り教室を開催した。

藍チームは、わくわくたんけん室でのたたみ染め体験や、絞り染めのセカンドスクールで来館した高校生への対応の補助を行った。

全チームによる取り組みとしては、例年の「軒の山吹」再現への支援のほか、イベント「盆踊りと世界の踊りと鉄道展」で「夕暮れ呈茶会」を主催した。

会員数：41名（平成31年３月31日現在）

◇その他団体（みるかネットなど）

秋田市内文化施設連絡会議が主催し、第17回国際博物館の日にあわせ、５月19日(土)に県立博物館、県立美術館、秋田城跡歴史資料館、千秋美術館、赤れんが郷土館、佐竹史料館、計６館でギャラリートークを実施した。残念ながら当日の大雨で幹線道路が冠水するなどして、博物館への来館はなかった。また、イベント通信の発行を例年と同様行った。

博物館における実習・研修

◇博物館実習

平成30年度の博物館実習は、９月11日(火)から16日(日)までの６日間で行い、国士舘大学、東京女子大学、千葉大学、八洲学園大学、岩手大学、金沢大学、筑波大学、東北芸術工科大学の計10名の実習生を対象にして実施した。

実習は、講義形式で博物館に関する事を学ぶものと、体験実習形式で、資料を取り扱ったり、博物館の事業や業務を体験する実務的なものと、２つに分け行った。

博物館活動の記録・整理

◇博物館活動の記録・整理

博物館活動については新聞、雑誌等による133件を超える記事掲載があり、県内外に当館の博物館活動が広く伝えられた。掲載記事は記録集にまとめ、館職員が常時利用できるようにするとともに、年に２回行われる博物館協議会において委員に配付した。また、ウェブサイト上に各種団体やサークル等が、博物館で開催されるイベント等を紹介する機会も徐々に増えてきた。掲載希望団体とＵＲＬを記録し、今後の広報活動に活用していく必要がある。

博物館活動を広く伝える媒体である新聞や雑誌等をはじめ、マスコミに対しての情報提供の内容や時期等について検証し、利用者増につながる広報活動により、当館の魅力を一層広めていきたい。

◇レファレンス

博物館では、所蔵する資料や秋田の文化や自然などに関する質問を受けている。平成30年度の県内外からの各部門等に対しての問い合わせ件数は次の通りである。考古４件、歴史５件、民俗６件、工芸10件、生物15件、地質８件、真澄36件、先覚15件

5　広報出版活動

展示やイベントに関するポスターやチラシについては、内容に合わせて配布計画を検討し、関連団体や学校等に重点的に配布した。秋田市内のコンビニエンスストアに対しては、県の計画に沿って配布した。ポスター・チラシの宣伝効果が大きいことが分かったので、訴求力や正確性に留意したデザインと内容に工夫を行った。

マスコミ・地元情報誌等に関するプレスリリースや情報提供は、展示・イベントにあわせて時機を逸することなく、積極的に行った。年度後半には魁新報社からの依頼で毎週日曜に「学芸員の研究リポート」を連載し、各学芸職員が博物館活動への理解を深めた。

ホームページは、利用者の立場に立った魅力的なコンテンツを提供することに努め、展示・イベント等にあわせて掲載情報を更新した。デザインの変更や正確な情報提供により、閲覧者数が増加した。フェイスブックは、イベントを中心に投稿したが、投稿後すぐの反応が多くなり、博物館が期待されていることが分かる。

広報活動

◇広報計画の策定と実施

広報は特別展・企画展の開催および燻蒸消毒に伴う休館の周知に合わせ年４回の定期発送の計画を策定した。この定期発送では、各展示のポスター・チラシのほか当館が発行した各広報誌やイベント情報等の印刷物を、県内の学校、図書館、公民館などの公共施設や県内外の博物館、道の駅などの観光施設等に発送し、掲示を依頼した。

また、定期発送は展示の情報が事前に周知されるよう、展示開始の１か月前を目処に発送時期を設定した。ポスター等の納期に合わせた準備や各担当者からの協力もあり、概ね予定通りの発送を行うことができた。

◇その他の広報活動の実施と改善

特別展「あきた大鉄道展ＨＥ－30系」については、定期発送のチラシ類を発送する際、県内の小学校への配布分に関して、全児童と教職員への配布を実施し、集客を狙った。他の企画展についても、展示内容に関係する団体や資料借用などで協力を依頼した施設等をチラシの配布先へ追加し、情報の周知を図った。

展示やイベントの情報提供については、各報道機関が所属する県庁記者クラブへのプレスリリースを16回行い、企画展・特別展をはじめとして、企画コーナー展や各種イベントなどにも多くの取材があり、新聞等で紹介された。また、教育委員会広報誌「教育あきた」、秋田県広報紙「あきたびじょん」、秋田県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」等への掲載を積極的に働きかけ、博物館の情報の周知に努めた。さらに、秋田県生涯学習センターで管理運営している生涯学習支援システム「まなびサポート秋田」に展示情報を掲載してもらい、お互いに連携を深めることができた。広報は、集客に直結するものであり、多くの県民に興味・関心をもっていただけるよう、より効果的な広報について今後も工夫と改善を図っていきたい。

出版物の刊行・配布

◇展示ポスター

企画展「あきたびじょん」	Ｂ２判	1,200部
特別展「あきた大鉄道展」	Ｂ１判	200部
	Ｂ２判	1,500部
企画展「菅江真澄、記憶のかたち」	Ｂ２判	1,300部
アイヌ工芸品展「キムンカムイとアイヌ」	Ｂ２判	1,200部

◇展示広報チラシ

企画展「あきたびじょん」	Ａ４判	20,000部
特別展「あきた大鉄道展」	Ａ４判	100,000部
企画展「菅江真澄、記憶のかたち」	Ａ４判	24,000部
アイヌ工芸品展「キムンカムイとアイヌ」	Ａ４判	20,000部

◇展示図録

特別展「あきた大鉄道展」	Ａ４判	4,000部
企画展「菅江真澄、記憶のかたち」	Ａ４判	600部
アイヌ工芸品展「キムンカムイとアイヌ」	Ａ４判	600部

◇展示解説資料

秋田の先覚記念室企画コーナー展「民族音楽の研究者　黒沢隆朝」	Ａ４判	８頁	1,000部

◇広報誌

博物館ニュースNo.167・168	Ａ４判	８頁	各2,300部
広報紙「真澄」No.36	Ａ４判	８頁	1,500部

◇報告書等

年報平成30年度	Ａ４判	46頁	1,000部
秋田県立博物館研究報告第44号	Ａ４判	77頁	600部
真澄研究第23号	Ａ５判	108頁	500部

インターネット利用

平成30年度のホームページへのアクセス数は約６万回で、ここ数年は約５万回で推移している。閲覧状況の記録から、トップページや企画展のページがよく閲覧されていることがわかった。トップページに設置したスライドショーやイベントカレンダーを随時更新して、告知を十分に行うとともに、フェイスブックも適宜更新して話題や情報を提供している。

電子メールについては、県内外からの様々な問い合わせ、博物館教室や講演会などの申し込みなどがあり、担当者が定期的にチェックして対応している。また、外部とのデータのやり取りで使用頻度が上がってきている。

6　学習振興活動

学習振興班は、体験型展示室「わくわくたんけん室」の運営と小中高による学校団体の利用促進が活動の中心となっている。また、高校生インターンシップ、ボランティア活動や中学校職場体験についても受け入れを行っている。平成30年度は義務教育学校の教員長期社会体験研修は希望者が出なかったため、当館での実施は無かった。

わくわくたんけん室では、学習体験の道具が入った「宝箱」約75点ほどを室内に配置し、自由に利用できる環境をつくっている。平成30年度は、新しいアイテムとして石膏で作る「犬の干支人形」やペーパークラフト「秋田犬の立体ぬり絵」も追加となった。常設展示や企画展、特別展との連携企画では、「アイヌとクマさんの顔出しパネル」や「菅江真澄のなまはげお面」なども好評となった。

学校団体のセカンドスクール的利用については、博物館の見学のほか年末から１月にかけては、分館旧奈良家住宅の見学や昔の道具の資料解説の要望が増えた。利用者数については、児童生徒の自然減の影響もあるが特に県中央部の小学校の来館数が減少し、平成30年度は6,700人程度に留まった。今後も教育施設として更なる学校利用の促進と充実に努めていきたい。

わくわくたんけん室の運営

◇室内環境の整備（一般及び団体利用）

わくわくたんけん室は、児童生徒の長期休業はもとより、平日でも多くの家族連れが訪れる体験型の展示室であり、若い家族連れの来館目的の１つにもなっている。わくわくたんけん室の運営は、常設展示や企画展との連携からも重要で、掲示したイベント情報や工作カレンダーは来室者にとって有効な告知となり計画的なイベントへの参加や再来回数の増加に繋げることができる。

イベントによっては、注意喚起用のパネルを適切に配置することで作業中の事故やケガの予防にもなった。その効果もあり、平成30年度は大きな事故やトラブルも無く運営を終えることができた。

わくわくたんけん室が展示室と連携することは、家族連れの来館者数を伸ばし、児童生徒の展示室への積極的な取り込みにも繋がっている。今後も季節イベントや季節アイテムの充実をはかり、あらゆる年齢層が博物館に立ち寄るきっかけになればと考える。

◇室内・体験アイテムの保守管理

体験型展示室であるわくわくたんけん室は、実際に手に触れて遊び、工作することで、秋田の自然や歴史、かつての暮らしや伝統、産物について、楽しみながら学んでもらうことを目指したスペースである。室内には多種多様な資料やアイテムが揃えられており、また折々に、季節に合わせた体験イベントが設けられている。常設と季節イベントの工作アイテムの材料は、合わせると数十種類にも上る。これらの各々に不足をきたさないよう、在庫管理に留意し、必要な消耗品はあらかじめ充分に在庫しておき、常に準備されているように心掛けた。

わくわくたんけん室は親子連れがよく見られ、小学校低学年や就学前の幼児の利用が多い。室内のアイテムや道具類の取り扱い方や力の加減がわからず、破損してしまうことがしばしばある。壊れたアイテムの使用は利用者のケガに繋がるため、速やかに回収し、補修や代替品の補填等で対応するように努めた。ままごと道具のような小さい物は、幼児が口にすることがあるため、清潔が保てるよう衛生管理に努めた。

これからも来館者がいつ来ても快適に利用することができるよう、環境整備や安全管理を図っていきたい。

◇室内・体験アイテムの改善・開発

わくわくたんけん室では、常設展示や企画展と連携したアイテムを開発し、それらを来館者に無料で提供している。

工芸部門からは、新しく「あみんぐしおり」を開発していただき午前限定で来館者に提供している。

石膏で作るレプリカづくりでは、平成30年はイヌの干支人形、31年に入りイノシシの干支人形に変更したが依然として希望者が多く、人気の高いアイテムとなっている。休日や祝祭日には予想を超える希望者が集まり、抽選によって参加者を決定することもあった。

平成30年度の特別展「あきた大鉄道展」では電車のお面づくりが好評となった。アイヌ工芸品展「キムンカムイとアイヌ」では「アイヌとクマさんの顔出しパネル」を入口付近に設置したことで展示室への誘導に効果があった。「菅江真澄のなまはげお面」は期間限定で提供したが、300枚を超える枚数が出るなど大変な人気となった。

◇季節アイテム、イベント

わくわくたんけん室では、平成30年度も月ごとや企画展に合わせてイベントを行い、幼児や小学生の親子連れから高齢者まで、幅広い年齢層の方々に利用いただいた。

イベントは平成29年度と同様、「たたみ染め・レプリカづくり」を軸としつつ、「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ！（春・秋）」、「貝のマグネット・標本づくり」、「ミニ門松・しめ縄づくり」、「木の葉・木の実アートづくり」を行った。

「貝のマグネット・標本づくり」は例年通り小・中学校の夏季休業期間に合わせて７月下旬から約１か月間実施した。期間中は1,900件近くの申し込みがあり、子どもとともに保護者が作る光景もよく見られた。

「ミニ門松・しめ縄づくり」も例年通り12月の１か月間実施した。期間中は冬期間にも関わらず約550件の申し込みがあり、両親と子どもで左右の門松としめ縄を作る家族も見られた。子どもから大人まで楽しめる企画として今後も継続して実施したい。

なお、季節アイテムは端午の節句前後に鯉のぼり、桃の節句前後に雛祭りのペーパークラフトを提供した。

◇出張わくわくたんけん室

・自然科学学習館（アルヴェ）　７月16日(月)
たたみ染め78名、イタヤ馬８名、コマ30名、蝶の塗り絵26名の参加人数となった。職員２名派遣。

※10月７日(月)秋のイベントは台風のため中止となった。

博物館における研修・実習

◇セカンドスクール的利用

利用状況は、平成29年度と比較すると、全体として学校数、利用人数ともに減少した。特に、秋田市や県北からの利用が減少した。以下、各校種とも平成29年度と比較する。

幼稚園・保育所については、雨天時のみの利用を申し込んだものの、結果的に晴天のため来館しない学校は、平成30年度はなかった。しかし、全体として学校数、利用人数ともに大幅に減少した。

小学校・高等学校についても、学校数、利用人数ともに減少した。高校については引き続きインターンシップ等の利用を増やす方策を講じたい。

中学校については、学校数、利用人数ともに増加した。宿泊研修や職場見学との組合せで来館する学校が目立った。

特別支援学校については、学校数は増加したが、利用人数は減少した。

	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
	学校数	利用人数	学校数	利用人数	学校数	利用人数
幼稚園・保育所	19	863	24	1,269	22	887
小学校	84	4,079	96	4,874	99	4,841
中学校	24	1,300	20	1,238	30	1,058
高等学校	14	417	17	553	26	710
特別支援学校	4	33	3	70	5	35
その他	3	74	5	95	2	13
合計	148	6,766	165	8,099	184	7,544

全体としての学校数の減少は、重要な検討課題である。学校の博物館利用についてよく周知させるとともに、各学校の必要に応じたより一層細やかな配慮ができる体制を今後も整えたい。

◇出前授業

平成30年度の出前授業は、小学校２件、中学校１件、特別支援学校１件の、計４件の申し込みがあった。昨年度は小学校４件、高校１件の計５件の利用であったので、１件の減となる。

教員に対する広報としては、セカンドスクールでの来館利用時、また教員のための博物館の日などに、出前授業に関する説明を行っているが、実際の利用にはなかなか繋がっていない現状である。教室に居ながら実際の物や資料に触れ、専門の学芸員による解説によって、教科書だけでは得られない、より深い理解に繋げられることが出前授業の利点であり、この点をより知ってもらうような広報を検討する必要があるだろう。

勝平小学校４年(113名) 秋田の行事と祭り　８月30日(木)
土崎中学校１年(175名) 北前船と秋田　11月26日(月)
大曲支援学校　(14名) しめ飾り作り　12月14日(金)
勝平小学校３年(114名) 昔の道具　２月１日(金)

◇職場体験、インターンシップ

当館は教育的施設であることから、職業教育の一環として、博物館の業務や学芸員の職務内容を学んでもらうために、学校や教育委員会からの職場体験、インターンシップの受け入れを行っている。

平成30年度は中学校２校、高等学校３校、教育委員会

１件、計６件の受け入れを行った。この他に、高等学校のインターンシップ希望が１件あったが、くん蒸期間に重なり、日程変更が困難だったため実施を断念した。わくわくたんけん室の接客補助、材料の作成や準備、季節イベントの問題作成、資料の洗浄等で、初めての作業に接し、緊張することも多かったと思うが、博物館の仕事について理解を深めてもらうことができた。

＜職場体験＞

潟上市教育委員会	（４名）	10月16日～18日(火～木)
秋田北中学校	（１名）	10月30日・31日(火・水)
秋大附属中学校	（４名）	12月４日～６日(火～木)

＜インターンシップ＞

能代高等学校	（２名）	７月24日・25日(火・水)
秋田和洋女子高等学校	（１名）	８月７日～９日(火～木)
秋田商業高等学校	（２名）	９月11日～13日(火～木)

◇教員のための博物館の日

８月２日(木)「教員のための博物館の日」は、各学校種、教育機関などから合わせて17名の参加があり、実施した。午前中は、セカンドスクール利用の概要を紹介し、その後、わくわくたんけん室の利用について説明をした。また分館・旧奈良家住宅においては、概要説明と昔の人の暮らしや昔の道具などの授業を行う際に活用できる箇所・ものについての解説を行った。午後からは、学習室にて和紙たたみ染めの製作体験を行い、活動時間や作業の難易度を体感してもらった。その後、本館展示室内を２つのコースに分かれ、学芸職員の解説の下、見学を行った。見学後は、実験教室に移動し、貸出資料についての説明を各部門ごとに詳しく行い、活用方法などについても紹介した。

国立科学博物館が中心となって連携実施している「教員のための博物館の日」に加盟して２年目の実施となった。様々なバックアップをしてもらうことができる点でメリットがあった。また、国立科学博物館をはじめ全国の博物館との有意義な情報交換ができ、今後への参考となった。参加頂いた17名の先生方からは概ね好評な感想をもらったが、当館のセカンドスクール利用への更なる啓蒙を図るためにも、よりよい活動を目指したい。

7　館外活動

◇執筆（著書・論文など、「研究報告第44号」は除く）

松山　修	「菅江真澄を読む視点」など（石井正己編『菅江真澄が見た日本』）
梅津　一史	「日本未記録の *Anthonympha rossica* Ponomarenko, 2015（コナガ科）について」（蛾類通信 No. 286）
	「秋田県内で採集したニセマイコガ科」（誘蛾灯 No.232）
	「秋田県のチョッキリゾウムシ科」(秋田自然史研究 No. 75)
畑中　康博	「変わりにくいもの」（『楽園』平成 30 年４月）
	「新政府軍の中の秋田藩士」（『楽園』平成30年６月）
	「生保内線ディーゼルカー導入秘話」(『楽園』平成30年８月）
	「いい湯だな　アハハン－慶応二年　秋田藩主の温泉旅行－」（『楽園』平成30年10月）
	「秋田藩士ヒグマに遭遇す」（『楽園』平成30年12月）
	「権力の狭間で－戊辰戦争時の秋田藩－」（『楽園』平成31年２月）
	「軍事と人事から見た秋田藩戊辰戦争」（『秋田歴研協会誌』68）
	「書評 栗原伸一郎『戊辰戦争と「奥羽越」列藩同盟』（清文堂出版）」（『日本歴史』844）
丸谷　仁美	「祭り歳時記　中里のカンデッコあげ行事」（文化庁広報誌ぶんかる）
	「屋敷番楽」・「鳥海山北麓の民俗と行事」（鳥海山北麓の獅子舞番楽）
角崎　大	「一年の暮らし　軒の山吹」、「学べる施設　秋田県立博物館菅江真澄資料センター」（石井正己編『菅江真澄が見た日本』）

◇講演、講座など

髙橋　正	「鳥海山信仰における祈りのかたち」（県生涯学習センタースマートカレッジ）
船木　信一	「学校教育を含めた多様な主体との連携による学習活動」（平成30年度博物館長研修）
松山　修	「真澄研究への丹羽嘉言の登場」（岡崎シンポジウム）
	「菅江真澄から見た湯沢」(ゆざわ学講座）
	「男鹿、私的学びのはじめ」（男鹿市菅江真澄研究会）

	「菅江真澄と平泉」（平泉シンポジウム・パネラー）
	「地誌、見どころ読みどころ」（菅江真澄研究会）
	「大森町地誌、音読のすすめ」（大森町歴史研究会）
畑中　康博	「部隊移動と戦闘から見た秋田藩戊辰戦争－古内左惣治隊を中心として－」（大仙市アーカイブズ・秋田大学史学会近世近代部会）
	「秋田藩大館戊辰戦争について」（北羽歴史研究会）
	「軍事と人事から見た秋田藩戊辰戦争」（秋田県歴史研究者・研究団体協議会）
	「戦争の実像と作られる戦争像－秋田藩戊辰戦争の記録と記憶をめぐって－」（秋田県公立小中学校退職教頭会）
	「大仙市明治150年シンポジウム　近代への道程－戊辰戦争と人びと－秋田藩の視点から」（大仙市・秋田大学史学会）
	「大仙市明治150年シンポジウム 変貌するふるさと―教育・交通・産業―田沢湖線（生保内線）の敷設運動・近代化運動と地域社会」（大仙市）
	「古文書から見た秋田藩戊辰戦争」（羽後町歴史民俗資料館）
	「明治維新と秋田」（秋田の史跡を学ぶ会）
	「明治150年 横手・平鹿地域の戊辰戦争」（沼館地区交流センター運営協議会）
	「明治150年記念　戊辰戦争と秋田」（佐竹史料館）
	「古文書の整理と実務－秋田県立博物館守屋家資料の整理作業から－」（小坂町立総合博物館郷土館）
	「戦場の秋田藩士－秋田藩戊辰戦争150年の視点－」（秋田市民郷土懇話会）
	「150年前の戦争　秋田藩戊辰戦争を学ぼう」（生保内史談会・生保内中学校）
	「古文書面白ゼミナール」（大仙市神岡中央公民館）
	「古文書から読み解く戊辰戦争」（由利本荘市文化財保護団体連合会）
	「戦争美化の論理」（飯島塾）
丸谷　仁美	第13回無形民俗文化財研究協議会「いま危機にある無形文化遺産～無形民俗文化財の休止・廃絶・継承をめぐって～」（東京文化財研究所）
	平成30年度アイヌ工芸品展「キムンカムイとアイヌ－春夏秋冬」関連講演会「マタギの世界～阿仁マタギを中心として」（新ひだか町地域交流センターピュアプラザ）
	「人生儀礼～秋田の例を中心として～」（鹿角市歴史民俗資料館）
斉藤　洋子	「素材と技術にみる編組品」（秋田県埋蔵文化財センター）
	「てくて。あそびの学校―暮らしの中の編組―」（てくて。あそびの学校実行委員会）
	「払田柵跡ＤＥスケッチ」（払田柵跡調査事務所）
角崎　　大	「象潟のアイヌ資料と真澄」（にかほ市郷土史市民講座学習会）
	「菅江真澄について～真澄をがさべり～」（中央ナイスミドルカレッジ学習会）
	「はじめての真澄学」（秋田市生涯学習奨励員研修会）

◇委員委嘱

新野　直吉	史跡払田柵跡調査指導研究委員（委員長） 秋田城跡整備委員会委員（委員長） 史跡秋田城跡保存管理計画策定指導委員会委員（会長） 後三年合戦（役）等関連遺跡整備指導委員会特別委員 秋田大学附属中学校評議委員 由理柵・駅家研究会顧問
髙橋　　正	横手市文化財保護審議委員 美郷町文化財保護審議委員 百宅地区の記録保存委員会委員 鳥海山北麓の獅子舞番楽調査委員 文化財収録作成調査委員
船木　信一	大潟村干拓博物館協議会委員 農林水産省国営八郎潟地区環境配慮アドバイザー 秋田市自然環境アドバイザー
梅津　一史	国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザー 秋田県版レッドデータブック改訂検討委員会委員
畑中　康博	大仙市アーカイブズ運営審議会委員（副委員長）
新堀　道生	由利本荘市文化財保護審議会委員
丸谷　仁美	鳥海山北麓の獅子舞番楽調査委員 由利本荘市民俗芸能伝承館運営協議会委員 横手市文化財保護審議会委員 日本民具学会評議員

資　　料

Ⅰ　収蔵資料の概要

収蔵資料総数　（平成31年４月１日現在）

総 集	美 術	工 芸	歴 史	考 古	民 俗	生 物	地 質	先 覚	真 澄	計
3,759	450	13,712	9,032	2,640	10,212	121,777	17,048	5,381	2,229	186,240

文化財指定物件一覧（館蔵資料）

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第６号	紙本着色　秋田風俗絵巻	１巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財（絵画）
県	工芸	工芸第40号	刀　銘出羽住忠秀刻印	１口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第34号	鐔　壇渓図	１枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第53号	短刀　銘天野藤原高真作 元治元年吉日	１口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	１合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第62号	鐔（あやめ図透彫） 銘　出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	１枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第67号	刀　銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	１口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財（工芸）
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料（刀剣類ほか）	１括	平成11. 3.12	県指定有形文化財（工芸）
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久保字狐森出土	１口	昭和53. 6.15	重要文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 （枯草坂古墳出土）	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器（沢田遺跡出土）	１点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財（考古資料）
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品（青磁碗他）	１括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財（考古資料）
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内上捨出土	４箇	昭和63. 6. 6	重要文化財（考古資料）
県	歴史	歴史資料第６号	久保田城下絵図	１幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財（歴史資料）
県	歴史	歴史資料第７号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財（歴史資料）
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	１幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	１巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	１幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財（書跡・典籍）
県	歴史	書跡典籍第17号	手柄岡持（朋誠堂喜三二） 自筆作品並びに関係資料 （江都前後赤壁）	１点	平成30. 3.16	県指定有形文化財（書跡・典籍）
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	１棟	昭和40. 5.29	重要文化財（建造物）
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	１棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田杣子造材之画	１点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物	5-3-0001	田沢湖のクニマス（標本）	１点	平成20. 7.28	登録記念物

Ⅱ　歴代館長、特別展等一覧

名誉館長

新　野　直　吉	平成12年４月～

歴代館長

佐　藤　文　夫	昭和50年５月～昭和52年３月
加賀谷　辰　雄	昭和52年４月～昭和53年３月
奈　良　修　介	昭和53年４月～昭和58年３月
畠　山　芳　郎	昭和58年４月～昭和63年12月
斉　藤　　長	昭和64年１月～平成元年３月
佐　藤　　巖	平成元年４月～平成３年８月
橋　本　顕　信	平成３年９月～平成４年３月
近　藤　貢太郎	平成４年４月～平成７年３月
高　橋　彰三郎	平成７年４月～平成９年３月
新　野　直　吉	平成９年４月～平成12年３月
冨　樫　泰　時	平成12年４月～平成15年３月
佐々田　亨　三	平成15年４月～平成17年６月
三　浦　憲　一	平成17年６月～平成18年３月
沢　井　範　夫	平成18年４月～平成20年３月
佐々木　義　幸	平成20年４月～平成21年３月
鈴　木　幸　一	平成21年４月～平成22年３月
荒　川　恭　嗣	平成22年４月～平成23年３月
神　馬　　洋	平成23年４月～平成25年３月
風　登　森　一	平成25年４月～平成27年３月
佐々木　人　美	平成27年４月～平成29年３月
山　口　多加志	平成29年４月～平成30年３月
山　田　浩　充	平成30年４月～平成31年３月
髙　橋　　正	平成31年４月～

特別展等一覧

昭和53年１月　地域展　伝説の里鹿角
　　７月　特別展（東京国立博物館巡回展）
　　日本の美
　　10月　特別展　文化庁所蔵優秀美術作品展
　55年１月　地域展　鳥海山麓－山と人－
　　７月　特別展　日本の時代服飾
　56年９月　東北展　東北の仮面
　58年１月　地域展　平鹿－水とくらし－
　　７月　特別展　はにわ
　59年５月　東北展　東北の近世大名
　60年12月　地域展　能代・山本
　　－川と山のくらし－
　61年７月　特別展　世界の貝
　62年６月　東北展　出羽の近世大名
　63年５月　特別展　神々のかたち－仮面と神像－
平成元年６月　特別展　日本列島発掘展
　　11月　地域展　湯沢・雄勝の文物展
　２年７月　特別展　日本のやきもの
　３年４月　特別展　世界の昆虫
　４年７月　特別展　近世美術の華
　５年４月　特別展　鳥ってなあに
　６年４月　特別展　北方文化のかたち
　７年４月　特別展　地球を見つめる小さな眼
　８年10月　特別展　ラ・ビレット
　　－科学の遊園地－
　９年11月　特別展　日本のわざと美

平成10年４月　特別展　ネアンデルタール人の復活
　11年４月　特別展　おもちゃ
　12年10月　特別展（国立博物館美術館巡回展）
　　信仰と美術
　16年９月　特別展　オリエント文化展
　　10月　北東北三県共同展　描かれた北東北
　17年７月　特別展　いきもの図鑑
　　～牧野四子吉の世界～
　18年９月　特別展　熊野信仰と東北
　　～名宝でたどる祈りの歴史～
　19年７月　北東北三県共同展
　　北東北自然史博物館
　20年７月　特別展　昆虫の惑星
　21年４月　特別展　白岩焼
　22年５月　北東北三県共同展　境界に生きた人々
　23年７月　特別展　粋なよそおい 雅なよそおい
　24年９月　特別展　アンダー×ワンダー！
　　―北東北の考古学最前線―
　25年７月　特別展　あきた大鉄道展
　26年９月　特別展　菅江真澄、旅のまなざし
　27年９月　特別展　徳川将軍家と東北
　28年９月　特別展　発掘された日本列島2016
　29年７月　特別展　妖怪博覧会
　　～秋田にモノノケ大集合！～
　30年７月　特別展　あきた大鉄道展　HE－30系

Ⅲ　秋田県立博物館条例

（昭和50年３月12日公布
昭和50年５月１日施行
平成28年４月１日最終改正）

（設置）

第１条　郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館（以下「博物館」という。）を秋田市金足鳰崎字後山52番地に設置する。

（職員）

第２条　博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

（博物館協議会）

第３条　博物館に秋田県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会は、委員15人以内で組織する。

３　委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

一　学校教育及び社会教育の関係者

二　家庭教育の向上に資する活動を行う者

三　学識経験のある者

四　博物館の利用者

４　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（入場料等の徴収）

第４条　博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

２　前項の入館料の額は、別表第１に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

３　地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の４第７項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第２に定めるところにより使用料を徴収する。

（入館料等の減免）

第５条　知事は、特別な理由があると認めたときは、入館料又は使用料を減免することができる。

（入館料等の不還付）

第６条　既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めたときは、その一部又は全部を還付することができる。

（施行規定）

第７条　この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第１（第４条関係）

入館料の上限額

区　　分	金　　額	
	個　　人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	１人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	１人につき 320円
一　　般	600円	１人につき 480円

備考：この表における「小学校児童及び中学校生徒」及び「高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生」には、それぞれこれらの者に準ずる者を含むものとする。

別表第２（第４条関係）

区　　分		金　　額
講　　堂	１　日	11,700円
	半　日	5,850円
学 習 室	１　日	3,500円
	半　日	1,750円

Ⅳ　秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋）
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

◎　秋田県教育委員会行政組織規則

第26条　秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

一　博物館事業の企画運営に関すること。

二　資料の収集、保管及び展示に関すること。

三　資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。

四　資料の解説及び広報活動に関すること。

五　秋田県立博物館協議会に関すること。

◎　教育機関の管理及び運営に関する規則

第９章　博物館

（開館時間）

第38条　秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期　　間	時　　間
４月１日から10月31日まで	午前９時30分から午後４時30分まで
11月１日から３月31日まで	午前９時30分から午後４時まで

（休館日）

第39条　博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　月曜日（当該日が休日又は８月29日に当たるときは、その翌日）

二　年始（１月１日から１月３日まで）

三　年末（12月28日から12月31日まで）

（使用の許可の申請等）

第40条　講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の４第７項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

２　第11条第２項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

Ⅴ　入館者に関する資料

(1)　入館者数内訳

平成29年度

総入館者数　96,464人

有料展示

妖怪博覧会～秋田にモノノケ大集合！～

平成30年度

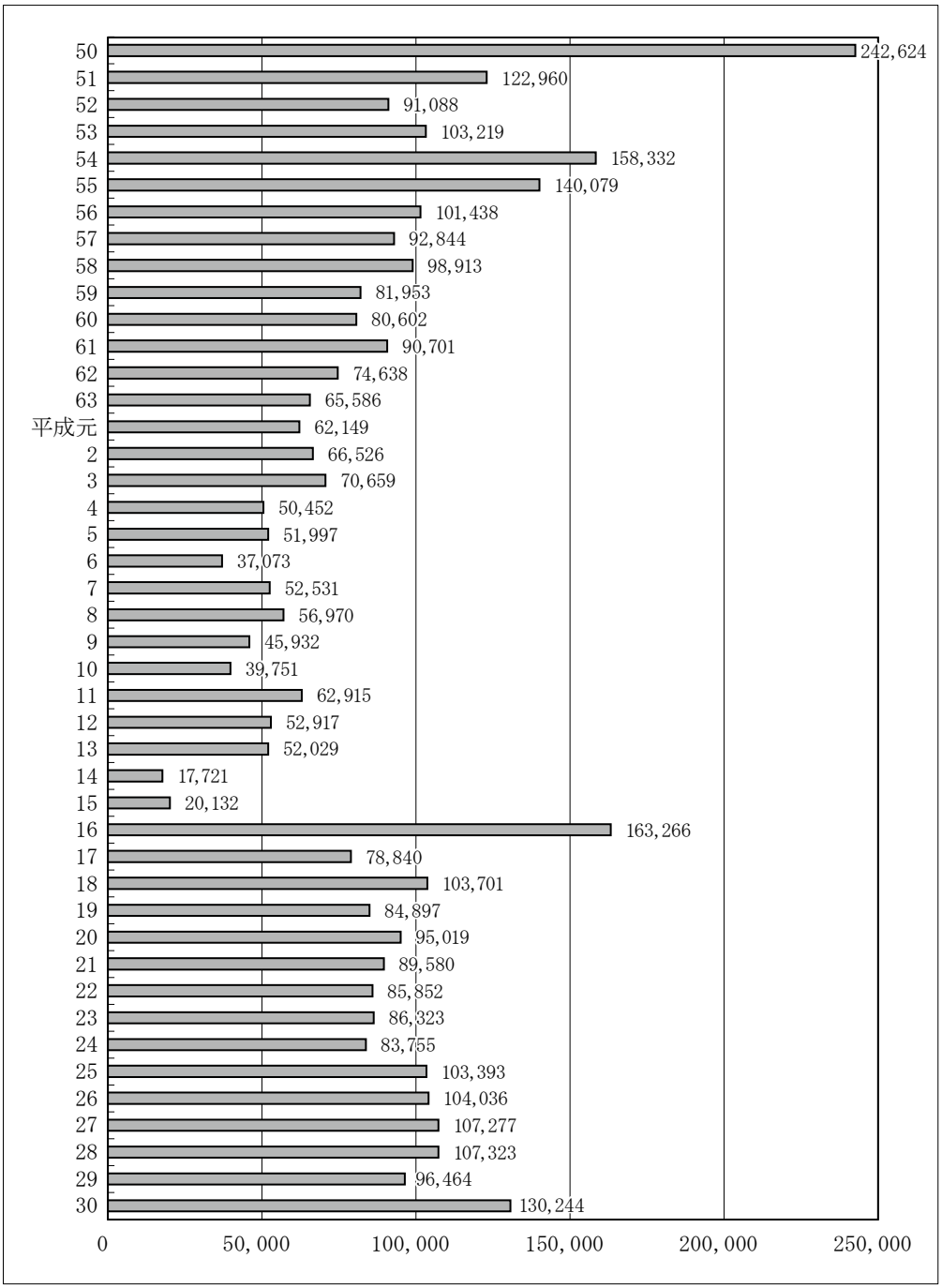
総入館者数　130,244人

有料展示

あきた大鉄道展　HE－30系

(2)　年度別入館者数の推移

延べ入館者数　　3,804,701人（平成30年度末）



※平成14･15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

～利　用　案　内～

開館時間　４月～10月　午前９時30分～午後４時30分
11月～３月　午前９時30分～午後４時

休　館　日　・月曜日
（ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日）
・年末年始
（12月28日～１月３日）
・燻蒸消毒の期間
2019年度は９月６日(金)～９月13日(金)

入　館　料

通常料金　　無料
平成11年４月１日から、博物館の入館料が無料になりました（本館・分館とも）。
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

使　用　料　（令和元年９月30日まで）

区分		金額
講堂	１日	11,700円
	半日	5,850円
学習室	１日	3,500円
	半日	1,750円

（令和元年10月１日より）

区分		金額
講堂	１日	11,940円
	半日	5,970円
学習室	１日	3,560円
	半日	1,780円

～交　通　案　内～

本　　館
ＪＲ東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分
バ　　ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分
車　　：秋田自動車道昭和男鹿半島ＩＣより10分、秋田北ＩＣより15分
秋田市中心部から国道７号で約15km・30分

分　　館
ＪＲ東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩30分
バ　　ス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

秋田県立博物館年報

令和元年６月発行
〒010－0124
秋田市金足鳰崎字後山52
秋田県立博物館
ＴＥＬ　018－873－4121
ＦＡＸ　018－873－4123